

(1).
日
枝
丸
爆
破
事
件

F-0145

0078

大臣 次官 電信課長 森

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調査 人事 儀典 文書

寫送先

昭和13 一七〇四 暗

本 省

一月廿一日後發

石出事務代理

第七號

廣田外務大臣

今廿日早朝米國人二名「ダイナマイト」ヲ以テ當地碇泊中ノ日枝丸
 爆破ヲ企テタル事件アリ水中ニ潛入セル一名ハ溺死シ共犯者一名ハ
 逮捕セラレ審理中ナルカ背後關係等未タ不明ナルモ右共犯ハ露國人
 系ニテ且主犯ト認メラルル右溺死者ハ最近加奈陀ヨリ入米セルモノ
 ノ如ク警察側ニテハ共產黨又ハ支那人ノ使喚ニ依ルモノト觀察シ居
 レリ不取敢

紐育、桑港、羅府、「ボートランド」、晚香坡へ轉電セリ

本邦船舶遭難事件

外務省

大臣 次官 電信課長 森

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調査 人事 儀典 文書

寫送先

昭和13 一八二八 暗

本 省

一月廿一日後發

根道領事

第三號

廣田外務大臣

「シアトル」發閣下宛電報第七號ニ關シ

本件犯人ハ何レモ加奈陀人ニシテ溺死セル Rolfe Forsyth (晚香坡生
 ハ知人ノ談ニ依レハ曾テP.C.大學農科ニ於テ「ケツシスタント、レ
 ックチュアラ」トシテ「チツク、セツクシング」ヲ講義シ居タル
 コトアリシモ其ノ後辭職シ常ニ金儲ニ腐心シ居タルカ同人ハ知人間
 ニ於テ金ノ爲ナラハ如何ナルコトモ爲シ兼ネマシキ性格ヲ有スル人
 物ナリトノ定評アリタル趣ナリ

本邦船舶遭難事件

外務省

大臣
次官

電信課長
森

東亞 歐洲 米商 條約 情報 文書 調查 儀典 會計 秘書官

昭和13 一七〇四 暗
シヤトル 一月廿一日後發
本省 廿一日前着

廣田外務大臣

石出事務代理

第七號

今廿日早朝米國人二名「ダイナマイト」ヲ以テ當地碇泊中ノ日枝丸
爆破ヲ企テタル事件アリ水中ニ潛入セル一名ハ溺死シ共犯者一名ハ
逮捕セラレ審理中ナルカ背後關係等未タ不明ナルモ右共犯ハ露國人
系ニテ且主犯ト認メラルル右溺死者ハ最近加奈陀ヨリ入米セルモノ
ノ如ク警察側ニテハ共產黨又ハ支那人ノ使喚ニ依ルモノト觀察シ居

本信寫挿入先

府、「ボートランド」、晚香坡へ轉電セリ

寫送先

外務省

大臣
次官

電信課長
森

東亞 歐洲 米商 條約 情報 文書 調查 儀典 會計 秘書官

昭和13 一八二八 暗
晚香坡 一月廿一日後發
本省 廿二日後着

廣田外務大臣

根道領事

第三號

「シアトル」發閣下宛電報第七號ニ關シ

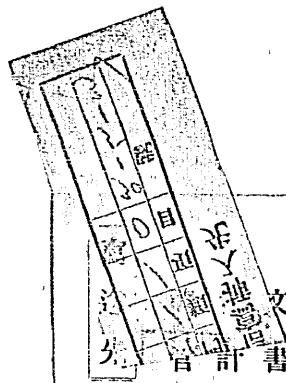
本件犯人ハ何レモ加奈陀人ニシテ溺死セル Rolfe Forsyth (晚香坡生
ハ知人ノ談ニ依レハ曾テ B.C. 大學農科ニ於テ「ケツシスタント」、レ
ツクチュアラ」トシテ「チツク、セツクシング」ヲ講義シ居タル
コトアリシモ其ノ後辭職シ常ニ金儲ニ腐心シ居タルカ同人ハ知人間
ニ於テ金ノ爲ナラハ如何ナルコトモ爲シ兼ネマシキ性格ヲ有スル人
物ナリトノ定評アリタル趣ナリ

寫送先

外務省

0080

F-0145



大臣
次官

電信課長

東亞 歐洲 米商 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 人典

昭和十三年八月一日

逮捕セラレタル George Partridge (「サスカチエワン」州生)ノ弟)
(William)ハ晚香坡市内ニ居住シ居リ事件發生後直ニ當市警察ニ
引致セラレ嚴重ナル訊問ヲ受ケ居ル處兄「ジョージ」ハ約三週間前
桑港ニ赴キ既ニ同地ニ在リシ「フオアーサイス」ト共ニ同地ニ於ケ
ル數人ノ有力支那人トノ間ニ日本ニ向ケ「スクラップ、メタル」ヲ
輸送スル日本船ノ爆破ニ付成功報酬附ノ契約ヲ爲シ最近當方面ニ歸
來シタルコトヲ承知シ居タル旨自白セル趣ナリ
明早朝當港ニ入港スヘキ日枝丸ニ付テハ當地警察ニ於テ万全ノ警戒
ヲ爲シ居レリ右不取敢
「シアトル」ヘ轉電シ米、紐育、羅府、桑港、「ボートランド」、
加ヘ暗送セリ

外務省

本邦船運難用信報

昭和十三年 一九〇七 暗 シヤトル 一月廿二日後發 米
本 省 廿三日前着

廣田外務大臣

石出事務代理

第八號

往電第七號ニ關シ

事件ト共ニ聯邦税關及移民當局モ警察ト協力シ又加奈陀官憲モ之ニ
參加取調ヲ開始セル外海軍當局モ現場臨檢ヲ行ヒタルカ犯人ハ兩名
トモ加奈陀人ニシテ去ル十三日晚香坡ヨリ當地ニ潛入セル者ナルコ
ト判明セリ尙搜查ノ結果海底ヨリ「デュボント」社製爆管三六九本
ヲ「タール」詰トシ時間計仕掛ヲ附シタル「スートケース」發見セ
ラレ同船ハ豫定ノ通り二十一日出帆本邦ニ向ヘリ溺死セル犯人カ主

外務省

3

次大
官臣

東 歐 米
亞 亞 洲

文儀人調文情條通
書典事查化報約商

本信寫插入先

會
書
門

寫送先

逮捕セラレタル George Partridge (「サスカチエワン」州生)ノ弟)
(William)ハ晚香坡市内ニ居住シ居リ事件發生後直ニ當市警察ニ
引致セラレ嚴重ナル訊問ヲ受ケ居ル處兄「ジョージ」ハ約三週間前
桑港ニ赴キ既ニ同地ニ在リシ「フオアーサイス」ト共ニ同地ニ於ケ
ル數人ノ有力支那人トノ間ニ日本ニ向ケ「スクラツプ、メタル」ヲ
輸送スル日本船ノ爆破ニ付成功報酬附ノ契約ヲ爲シ最近當方面ニ歸
來シタルコトヲ承知シ居タル旨自白セル趣ナリ

明早朝當港ニ入港スヘキ日枝丸ニ付テハ當地警察ニ於テ万全ノ警戒
ヲ爲シ居レリ右不取敢

「シアトル」ヘ轉電シ米、紐育、羅府、桑港、「ボートランド」、
加ヘ暗送セリ

外
務
省

昭和13 一九〇七 暗
本シヤトル 一月廿二日後發
省 廿三日着 米

廣田外務大臣

第八號

往電第七號ニ關シ

事件ト共ニ聯邦税關及移民當局モ警察ト協力シ又加奈陀官憲モ之ニ參加取調ヲ開始セル外海軍當局モ現場臨檢ヲ行ヒタルカ犯人ハ兩名トモ加奈陀人ニシテ去ル十三日晚香坡ヨリ當地ニ潛入セル者ナルコト判明セリ尙搜查ノ結果海底ヨリ「デユボント」社製爆管三六九本ヲ「タール」詰トシ時間計仕掛ヲ附シタル「スートケース」發見セ

外務省

寫送先

祕書官 會文儀人調文情條通米歐東
計書典事查化報約商洲亞亞

次大臣
官

電信課長

森

分類F門/類8項0目2

昭和13 一九〇九 略 晚香坡 一月廿二日後發 米
本省 廿三日前着
廣田外務大臣 根道領事
第四號
日枝丸ハ二十二日未明「シヤトル」ヨリ入港當地警察嚴戒裡ニ正午
無事出帆セリ
「シヤトル」、桑港、羅府、「ポートランド」、米、紐育、加ヘ轉
電セリ

外務省

本邦船舶遭難因信案件

犯ナルコト明瞭ニシテ舊臘桑港ニ赴キ同地ノ有力支那人ト聯絡ヲ遂
ケ沿岸諸港ニ於テ本邦船爆撃ヲ計畫セシコト判明セルモ未タ的確ナ
ル背後關係ヲ突き止ムルニ至ラス
米、紐育ヘ轉電シ、桑港、羅府、「ポートランド」、晚香坡ヘ暗送
セリ

外務省

F-0145

0083

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

電信課長

森

大臣

次官

廣田外務大臣

第七號

往電第三號ニ關シ

日枝丸事件ニ付二十四日「バンクーパー」市警察署長ト内談ノ際署長ハ今日迄ノ情報ニ依レハ策源地ハ加州方面ニテ背後ニ共產主義者ノ使喚アリ又資金關係等ニ付テハ支那人ニ聯絡アルカ如キモ當地共產主義者及支那人トノ直接關係ハ實證シ得ス又支那領事等ハ全然與リ知ラサリシモノト信シ居ル旨語レリ尙今後入港ノ日本船ニ對シテハ引續キ嚴重警戒スヘキ趣ナリ

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 會社 祕書官

昭和十三年八月二日

昭和13

二〇八一

暗

晚香坡 一月廿四日後發
本省 廿五日後着 米

根道領事

本邦船舶遭難事件

外務省

加、「シヤトル」、「ボートランド」、桑港、羅府、「オタワ」、
米へ暗送セリ

外務省

F-0145

0084

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

米 一石



女印紅信曹齡桑原敏寸

日板丸礮彈事件ニ関スル本日、電報中ハ号函告

一百廿四

通

13

米一石井訪吾殿

外務省

Form No. T. 6. (Printed in Japan)
S.K.

Nippon Yusen Kaisha

(400. 11-12) HO 188

Telegram received in Head Office, Tokyo, on 22/1/1938, 4.30 a.m. (2)
from Seattle dated 21/1/1938, 9.22 a.m. 10 (T)

Code	Translation
	<u>Urgent</u>
Elerk	42
vtasz	Our telegram No. 41
bomb	bomb
kzaze	located
ymabo	Hiye Maru
tauif	will sail
tnoam	according to schedule

Form No. T. 6. (Printed in Japan)

Nippon Yusen Kaisha

(400. 11-12) HO 188

Telegram received in Head Office, Tokyo, on 22/1/1938, 11.06 a.m. (137)
from Seattle dated 21/1/1938, 5.21 p.m. 5 (T)

Code	Translation
	43
	Hiye Maru sailed today

F-0145

0086

F-0145

0087

Form No. T. 6. (Printed in Japan) *Nippon Basen Kaisha* (No. 11-12) HQ 195

Telegram received in Head Office, Tokyo, on 21/1/1938, 11.17a.m. (121)

from Seattle dated 20/1/1938, 5.55 p.m. 33/32 (T)

Code	Translation
41 入 一 報	Plotter arrested, assert partner have placed bomb underneath Hiye Maru partner later found drowned, have moved ship diver searching (for) vicinity will telegraph result as soon as possible will load sail from another wharf if necessary taking every precaution here Vancouver we will advise all N.Y.K. Offices in America

(400. 11-12) HO 198

from Seattle dated 20/1/1938, 5.55 p.m. 33/32 (T)

Code	Translation
(41)	
Plotter	
arrested	assert
partner	have placed
bomb	underneath
Hiye Maru	partner
later	found
drawed	have moved
ship	diver
searching (for)	vicinity
will telegraph result as soon as possible	will load
sail from	another
wharf	if necessary
taking	every precaution
here	Vancouver
we will	advise all N.Y.K. Offices in America

外務省

石井米一 校長

二 事務 たいしやいと して 思ふ マシ

外省來電 二月八日 郵船貨物副長 山田國崎 兩氏

別件参考迄

0000

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

スルノ餘リ「ボイコット」ノ一手段トシテ日本商船ヲ爆破セントシタルモノナリヤ判然セス然レトモ其ノ動機ノ如何ヲ問ハス是等二名ノ行爲ニ對シテハ重大ナル警告ノ要アリ斯ル狂的行爲ニ依リ國際的事件カ發生シ往々ニシテ二國民カ對峙スルニ至ルナリ最近數箇月間加奈陀ニ屢々國際的事件發生シ加奈陀人ハ之ニ依ル他國ノ誤解ノ(危)險ヲ痛感シタリ今次事件ニ對シ日本人カ如何ナル態度ニ出ツヘキヤ不明ナルモ萬一本件爆破カ計畫通り實行サレ關係者カ逃走セハ米國ノ蒙ル迷惑ハ甚大ナリシナルヘシ特ニ一國ノ政府カ中立政策ヲ取り居ル際其ノ國ノ團體又ハ個人カ右政府ト無關係ニ行動スルコトハ其ノ國全体ヲ嚇怒セル被害國ノ誤解並ニ抗爭ノ火中ニ投スルニ至ルヘシ政府機能ニ屬スル行爲ヲ奪ハストモ侵略國ニ對ズル不滿ヲ表明ス

外務省

ル途ハ多々アルヘシ

「シテイズン」(二十四日)

多クノ青年ハ戰爭嫌ヒナリ然レトモ Forsyth カ陷リタルカ如キ極端ナル憎惡ヲ懷ク者ハ稀ナリ彼ハ青年ノ弊トシテ一途ニ支那ニ共鳴シタル結果之ニ魅ラレ遂ニ斯ル大事ヲ遂行シタルカ計畫ハ幸ニシテ失敗セリ彼ノ如キ行動ニ出テタル者ハ時トシテ國民的英雄ニ祭上ケラレタレトモ今次事件ニ於テハ彼ハ途方モナキ馬鹿ナ計畫ノ爲一命ヲ失フニ至レルナリ
米、晚香港へ轉電シ「シアトル」、桑港、羅府、紐育、「ボートランド」へ郵送セリ

外務省

米利加局

機密第三十號

昭和十三年一月二十六日

在シアトル

領事館事務代理 石出 瑞

外務大臣 廣田 弘毅 殿

日枝丸爆破未遂事件ニ關スル件

本件ニ關シテハ不取敢電報ヲ以テ報告シ置タル處尙米國側官憲トモ聯絡シ背後關係等注意中ナルガ今日迄ニ判明セル事件概要遂事的ニ左ノ通り報告申進ズ

記

一、一月二十日未明當地大北鐵道埠頭ニ於テ舉動不審ノ者一名同

在シアトル日本領事館

分類 F.1.d.0.2

二

鐵道夜警ノ爲逮捕セラレ又同午九時頃同波止場ニ碇泊中ノ日本郵船日枝丸ニ近ク全裸ノ溺死體一ヲ發見セリ

逮捕セラレタル男ハ當初貨物拔取ノ嫌疑ナリシガ訊問ノ結果石溺死者ト共謀シ日枝丸爆破ヲ企テタルモノニシテ溺死犯人ハ同船ニ對シ「ダイナマイト」裝置中癡癡^レノ爲溺死ニ至レルモノナルコト判明シ茲ニ警察ノ外聯邦稅關、移民局、「コースト、ガード」等モ參加一齊ニ檢察ニ着手セリ

二、翌二十一日逮捕中ノ犯人ハ George Partridge 二十二歳、溺死

セルハ Ralphe M. Forsyth 二十八歳、何レモ「カナダ」人ナルコト判明シ「カナダ」官憲モ活動ヲ開始セリ、溺死セル Forsyth ハ主犯ト認メラル、處同人ハ「ブリテイシュ、コロムビア」大學卒

在シアトル日本領事館

F-0145

0091

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

業後晚香坡某職業學校教師タリシコトアルモ最近ハ失業同様ノ状態ニアリタリト云ハレ豫テ晚香坡ニテ知合タル Partridge (大工職)ヲ語ラヒ一月十三日^夜汽船ニテ同地ヲ發シ當地ニ潛入セルモノナリ

一、犯人ノ自白ニヨリ海底捜査ノ結果二十一日朝 De Point 社製「ダイナマイト」三百六十九本ヲ「スートケース」一個ニ收メ海水ノ浸入ヲ防グ爲「タール」ヲ以テ之ヲ掩ヒ尙目醒時計ヲ附シ時間仕掛ト爲シ之ヲ鐵道枕木ニ吊シアルヲ發見セリ、右時計「アラーム、ハンド」ハ一時三十三分ヲ指シ居ルモ浸水ノ爲二分前即一時三十一分ニ停止シ居レリ

右發見ニヨリ同船ハ豫定ノ通り二十一日午后四時出帆本邦ニ向フ

在シヤトル日本領事館

コトヲ得タルガ海軍當局ニ於テモ同日士官二名ヲ派シ現場ヲ臨檢セシムル所アリタリ

一、Partridgeハ當夜犯行ノ直前マデ事情ヲ知ラズ唯晚香坡出發ニ際シ成功ノ曉ハ報酬一千弗ヲ支拂フベキ旨 Forsyth ヨリ口約ヲ與ヘラレタル旨ヲ述ブルノミナリシガ後ニ至リ本計畫ハ Forsyth ニヨリ晚香坡ニ於テ進メラレ其背後ニ支那人又ハ共產黨ノ關係アルモノ、如ク見受ケラル旨ヲ語ルニ至レリ

一、晚香坡ニ於テ Forsyth ノ肉親其他ニ就キ訊問ノ結果同人ハ舊臘桑港ニ赴キ支那總領事ニ接シタル事實アル旨傳ヘラレシガ新聞電報ニヨレバ同地總領事ハ全然左ル事實ナシト否定シ居レリ

一、當地警察ニ於テハ右爆藥ノ購入其他旅費雜費ニ約壹百弗ヲ要

在シヤトル日本領事館

ストシテ失業同様ノ犯人ガ如何ニシテ之ヲ賄ヒ得タルヤヲ突止メ
ントシ背後ニ有力ナル支那人アルモノト睨ミ居レルモ前線後ノ事
情ヨリ推スニ同人ガ事前ニ多額ノ金員ヲ手ニセル形跡ナキコト及
犯行振ノ大膽ナルニ見テ何等カノ信念ノ下ニ行動セルモノト認メ
ラレ或ハ共產主義團ノ後援アリシモノカトノ嫌疑ヲ指シ居レリ
一、犯人追求ノ結果犯人ハ「シアトル」ニ於ケル犯行ニ先チ十八
日日枝丸「タコマ」寄港ニ當リ同港ニ於テ「モーター、ボート」
ヲ盗用シテ同船爆破ヲ企テタルモ成功セズ翌十九日同船ノ「シア
トル」ニ回航スルヲ追ヒテ來沙シタルモノナルコトヲ自白シタル
ガ爲ニ十二日官憲ハ Partridge ヲ連行「タコマ」ニ出張シ同人等ガ
止宿セル小屋附近ノ水中ヨリ「ガスリン」罐八個ニ收メラレアル

在シヤトル日本領事館

「ダイナマイト」一十一百餘本殘留セルヲ發見セリ
一、本件策謀ハ晚香坡ニテ行ハレタル見込ナルコト前記ノ通りニ
テ當地警察ヨリ刑事二名同地ニ出張「カナダ」側ト協力捜査中ナ
ル處昨二十五日同地通信ハ主犯者 Forysta ハ一月五日同人實母所
有ノ「ダイアモンド」指環ニ個ヲ抵當トシテ寶石商ヨリ二百四十
弗ヲ借受ケタルコト判明シ右ニヨリ支那人ニ關スル背後關係嫌疑
稍々薄ラギタリト傳ヘ居レル處尙當地「タコマ」ニ於ケル計畫
ニ先チ同人等ハ一月十二日同船ノ晚香坡入港ニ際シ「ダイナマイ
ト」ヲ滿載セル「スミード、ボート」ヲ放チテ之ヲ爆破セン計畫
ナリシコト又判明スルニ至レリ

本信寫送付先 全米各館 晚香坡

在シヤトル日本領事館

亞米利加局

第一課

昭和三年貳月拾四日接受

普通第三三三號

昭和十三年一月二十六日

在シアトル

領事館事務代理 石出 瑞

外務大臣 廣田 弘毅 殿

日枝丸爆破未遂事件ニ關スル新聞論說報告ノ件

本件ニ關スル當地新聞論說左ノ通り報告申進ス

記

一、「ビー、アイ」紙 一月二十二日

我「シアトル」港ニ於テ本船ヲ爆破セントシタル奇怪事件ハ今
後再ビ繰返サレザル様警戒ヲ要スル所ナルト共ニ一般ノ嚴正ナル

在シアトル日本領事館

二

輿論モ今後斯ル犯行ヲ警ムルニ足ルベキモノナカルベカラズ、
暗殺、爆撃等ノ「テロリズム」ハ現ニ亞細亞ト歐洲ニ流行シ居
ルモ我米國其他文明國ニ於テハ之ヲ企ツル「テロリスト」ノ意
圖ニ正反對ノ結果ヲ齎スヲ常トスルコト「リンカーン」大統領
暗殺ノ例ニ徴スルモ明カナル所ニシテ本件犯人ノ意圖ガ日本人
ニ對スル反感ニ出發センガ或ハ財的報酬ヲ動機トスルモノナリ
シカハ敢テ問題トナラザル事柄ト云フベク萬一既遂ニ終ランニ
ハ其被害者ハ日本ニアラズシテ實ニ米加兩國タルベキヲ知ルベ
ク斯ル不逞ノ計畫ニ對スル米國人一般ノ恐怖ヲ正解セザル日本
大衆ヨリハ一種ノ疑心ヲ以テ迎ヘラレ延イテハ極東ニ於ケル米
國ノ地位ニマデ惡影響ヲ及ボスベキ危險アリ要之吾人ハ米國ヲ

在シアトル日本領事館

F-0145

0094

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

國際紛議ニ導カントスルガ如キ隱謀ニ對シテハ何等同情ノ餘地
ヲ有セス

一、「シアトル、タイムス」紙 一月二十六日

事件ノ全貌ハ未ダ明瞭ヲ缺グモノアルモ犯行ノ動機ニ日本ノ「
パネー」[※]沈ニ對スル報讐ヲ裝ヘルガ如キ點アルニ見レバ背
後ニ支那人在リトハ斷ジ得ズ、彼等ハ斯ル策謀ハ却テ日支戦争
以來米國人ノ支那ニ對シテ有スル同情ヲ失ハシムルコト、ナル
ベキヲ能ク知悉セル筈ナリ、然ラバ斯クモ米國ヲ戦争ノ危険ニ
導カント策謀スルハ果シテ何者ゾ、溺死セル犯人ハ良家ノ出ニ
シテ單獨ノ行爲トハ認メ難ク、面逮捕中ノ共犯者ハ初メ桑港ノ
某東洋國領事ニ聯絡アリト云ヒ後ニハ共產黨ノ後援アリト自白

在シアトル日本領事館

セル趣ナルガ何レニスルモ喧傳セラル、日本品「ボノコット」
ノ聲ハ主トシテ共產主義者ニ出デ而モ等シク日米紛争ヲ狙フモ
ノナルコトハ注目ニ値ス

本信寫送付先 在米大使 桑港 經府 ボートランド
晚香坡

在シアトル日本領事館

情報部

客米官第七三號

大臣
田 弘毅殿

昭和十三年一月廿七日

日本郵船株式會社
社長 大谷

登

昭和十三年一月九日
日本郵船株式會社

拜啓

日枝丸爆破陰謀ノ件

去ル一月二十日米國「シアトル」ニ於テ發見セラレタル日枝丸爆破陰謀ハ其背後關係等今尙十分判明致サズ候モ現在ノ國際情勢ニ於テハ今後同種ノ陰謀再發セザルコトヲ期シ難ク被存候而シテ日枝丸事件ハ幸ニ未遂ニ終リ危難ヲ免レ候モ本事件ニ關スル新聞等ノ報道ガ不知不識日本船舶ニ對スル不安感ヲ一般社會ニ與ヘタルコトハ否ミ難キ事實ト申スベク且又斯カル日本船「ボイコット」的ノ影響コソ正ニ彼等陰謀者ノ目的トスルトコロナルヤモ知レ不申ト愚察被致候果シテ然ラバ日枝丸事件ニ關シ

日本郵船株式會社

此際種々ノ報道記事等ヲ我國ニ於テ發表スルコトハ徒ラニ求メテ敵ノ術中ニ陥ルノ虞可有之憂慮ニ不堪候就テハ我國新聞社通信社等ニ對シ右趣旨適當ニ御達示被成下間敷哉此段御願申上候
尙關係外國官憲當局ニ對シテハ此上共一層我國船舶ノ保護警戒ヲ嚴重ニスル様要請スルト共ニ前記新聞報道等ノ抑制方ニツキテモ適當考慮方御交渉被成下候ハ幸甚ニ奉存候

敬具

二止ノ

F-0145

0096

電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
會社
秘書官

寫送先

類下門/類/項0目2

昭和13

二四五〇

暗

桑港
本省

一月廿八日後發
廿九日後着

米

廣田外務大臣

第二四號

鹽崎總領事

晚香坡發閣下宛電報第三號及第七號並ニ「シヤトル」發閣下宛電報
第八號ニ關シ

當地警察署長ニ對シ右兩地警察側ヨリ聞込ノ内容ヲ傳ヘ當地ニ於テ
モ嚴重探查方依頼濟ナルカ警察側ニテハ未タ何等ノ手懸ヲ得居ラサ
ルモノノ如ク探查ノ上事實判明セハ結果回答スヘシト語レリ尙昨廿
七日大洋丸當地入港ノ際ハ警察側ニテハ萬一ヲ慮リ特ニ制私服警官
ヲ増派セル外巡邏船一隻ヲ埠頭ニ派シ海陸兩方面ヨリ相當綿密ナル

外務省

警戒ヲ加ヘタル處今後モ當分邦船ノ入港毎ニ特別注意ヲ拂フヘシト
ノコトナリ
米、紐育、羅府、「シヤトル」、「ボートランド」、晚香坡へ暗送
セリ

外務省

F-0145

0097

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

外
務
省

任
國政府
申入
アリ
シ

米宛
在米乃便宛
往電宛
一
号ノ
趣旨ニ依リ貴
有社

暗
平 暗

第

號

—

電 送 第 2590 號

昭 和 3 年 1 月 28 日 前 接 時 10 分 發

宛
加
木下代理公使

記 錄 件 名

宛
右
木
下
代
理
公
使

發
弘
田
大
臣

管主
亞米利加局長

主任
第一課長

昭和十二年
一月八日起草

電信課長

發電係

28

月 收

電
信
案

外務省

アリ、
かたが、
オウタウ、
ニ、
アトル、
ウ、
ア、
ニ、
電、
ヤリ

ニモ日米關係ニ不測ノ影響ヲ與フルカ如キコトナキニ資スルハ帝國政府ノ希望ニ堪ハサル

(原議用紙乙)

アル趣ニテ二十八日擔任檢事ハ本官ニ對シ拘留中ノ共犯者ニ對スル
處刑ハ爆發物法違反ニ依リ州法（五年乃至二十五年ノ懲役）ヲ以テ
論セラルヘキ見込ナリト言ヘリ
米、晚香坡ヘ轉電シ紐育、桑港、羅府、「ポートランド」、加爾各答
送セリ

外務省

電信課長

大臣
次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調查
人事
儀典
文書
會計
秘書官

寫送先

昭和13 二七八八 暗

オタワ 一月卅一日後發
本省 二月 一日前着

米

廣田外務大臣

木下代理公使

第一〇號

貴電第三號ニ關シ（日枝丸爆破陰謀事件ノ件）

在米大使宛貴電第二一號ノ御趣旨ヲ外相宛公文ニ認メ本三十一日送

達セリ公文寫郵送ス

米、「シヤトル」、晚香坡ヘ暗送セリ

外務省

本邦船舶遭難事件

亞米利加局

機密公報 三〇 號

第一課

別紙添附

昭和三年 三月 廿一日 接受

昭和三年 一月 三十一日

在加奈陀

臨時代理公使

木下武雄

外務大臣 廣田弘毅 敬啟

日枝丸事件に付加奈陀政府へ申入に關する件

本件に關し本且下向往事。申達ノ次第ありと雖も右ノ文寫
別添送付ス

本信等送付先

晚番坂

在カナダ日本公使館

亞米利加
13.3.2
第一課

F-0145

0103

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

- COPY -

JAPANESE LEGATION
OTTAWA

No. 2.

January 31, 1938.

Sir,

I have the honour to state, under instructions from my Government, that it is considered most fortunate that the plot by two Canadian subjects to blast the Japanese motor ship "Hiye Maru" at Seattle, Washington, U.S.A., on the 20th instant, did not succeed.

The news of the unfortunate attempt, however, came as a great shock to the Government and people of Japan and, as you may well understand, they are eager to know all details regarding the arrest of those concerned and the result of the investigation by the Canadian authorities as to the circumstances leading up to the attempt.

While my Government are grateful for the endeavours on the part of the Canadian authorities, since the plot was discovered, to have the matter investigated, it is the ardent desire of the Government of Japan that all phases

The Right Honourable W. L. Mackenzie King, P.C., C.M.G., LL.D.,
Secretary of State for External Affairs,
Ottawa.

- 2 -

phases of the affair should be revealed through the investigations of the Canadian authorities, and that steps be taken to prevent the recurrence of any such attempt, lest the happy relations existing between Japan and Canada should be affected by such happenings.

I avail myself of this opportunity to renew to you, Sir, the assurances of my highest consideration.

(Signed) T. KINOSHITA

Chargé d'Affaires a.i.

F-0145

0104

電信課長

森

昭和13

三〇三三

暗

華府 本省

二月二日

午後發

三日 前着

米

大臣

宮田

廣田外務大臣

第六一號

齋藤大使

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

貴電第二一號ニ關シ（日枝丸爆破陰謀事件ニ關スル件）
一日須磨國務省「ハミルトン」ヲ往訪貴電ノ趣旨ヲ申入レタルニ
ハ「ハ本件ノ如キ警察的事項ハ聯邦政府ノ權限ニ屬セス州當局ノ管
轄スル所ナルハ御承知ノ通りナル處御話ノ次第ハ寔ニ尤モニテ米國
トシテモ日米國交上此ノ種事件ノ發生ハ頗ル面白カラスト認メ居ル
旨ヲ述ヘタルニ付須磨ハ此ノ種事件ノ再發ニ對シテハ充分豫備的措
置ヲ講セラレ度キ旨要請シ置キタル趣ナリ尙本件犯人ハ加奈陀ヨリ

外務省

潛入シ來レル次第モアリ加奈陀側ニモ注意喚起方然ルヘキカト存ス
加奈陀、晚香坡、「シヤトル」ヘ轉電セリ

外務省

F-0145

0105

主信	發信用	執務用
附	甲	乙
乙	丙	丁
丙	丁	
丁		
備考		

懸案

公 信 案	別紙字一通電報有之候ニ付即参考迄右茲許送	破陰謀事件ニ関シ今般在桑港塩崎總領事ヨリ	件陪時下益々即清宋ニ改奉賀候陳者日枝丸爆	名 件 日枝丸爆破陰謀事件ニ関スル件	名 人 信 受 日本郵船会社 沢井荷物課長	管 主 亞米利加局長	米一	昭 和 拾 參 年 貳 月	參 日 發 送 濟 淨 書	正 校 (原稿人ヨリ)
							昭 和 拾 參 年 貳 月 貳 日	昭 和 十 三 年 一 月 三 日 起 草	石井米一課長	

(12.7 4)

2 124

文書課長

(分類)

電 信 案	往電ヲ二一ノ「桑港」ニ送リ、又ニ「アルレーレス」ニ轉電スル	電 送 第 2945 號	昭 和 十 三 年 二 月 三 日 發 送 時 分 五 時 四 分	管 主 亞米利加局長	主 任 第一課長	昭 和 十 三 年 二 月 二 日 起 草
		名 件 宛 日枝丸爆破陰謀事件	名 件 録 記	發 信 日 大 臣		

電信課長

發電係

F-0145

0107

發信用		執務用	
主信	3	1	4
附	甲	大	信
	乙		
	丙		
屬	丁		
備考			

懸案

公 信 案	本件ニ關シ今般在桑港極所從領事ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタ ルニ付何等御參考迄右茲ニ送付ス (別紙桑港來電第一號 執務作庫添附ノコト)	日枝丸爆破陰謀事件ニ關スル件 並ニ在コンソルト在出事務代理	名 件	受 信 人 名 陸軍海軍 通信 各次官	發 信 人 名 堀 次 官	主 管 亞米利加局長 主 第一課長	米一機密第四九九號 昭和拾參年貳月貳日 日附 附屬	文書課發送 昭和拾參年貳月 日發送済	淨書 (城野)	正校 (原稿)	昭和十三年一月三十一日起草	別紙	

2 121

公 信 案	付供即閱覽候															

付供即閱覽候

敬具

(別紙桑港來電第一號 執務作庫添附ノコト)

F-0145

0100

沙外第參號

外務省亞米利加局第一課長

石井康殷

昭和十三年二月七日

日本郵船株式會社

貨物課長 澤井謙吉

日本郵船株式會社

拜啓 陳者

一日校丸爆破陰謀事件ニ關スル件

ニ關シ二月二日附貴翰ヲ以テ「桑港」駐在鹽崎總領事竝ニ「シヤトル」駐在石出領事館事務代理殷ヨリノ情報御移牒ニ預リ難有拜承仕候
不取敢右貴翰御請旁々御禮迄如斯御座候

敬具

F-0145

0109

亞米利加局
外秘第二六八號

昭和十三年九月九日 接受

昭和十三年二月七日

大阪府知事 池田 清

内務大臣 末次信正殿
外務大臣 廣田弘毅殿

警視庁 北海道 神奈川 愛知
京都 兵庫 福井 山口 福岡 長崎
各廳府縣長官殿

日枝丸爆破陰謀事件ノ真相ニ関シ
郵船「シマトル」支店長ヨリ電報越ノ件

日本郵船株式會社大阪支店
入貨部主任 川口 又 男

右、過日東京本社ニ於テ開催セラレタル会社事務打合會ニ出席ノ為メ上京中ノ如
一月三十一日歸阪セル者ナルカ、滯京中、会社「シマトル」支店長片岡種美ヨリ本
社迄日枝丸爆破陰謀事件ノ真相ニ関スル左記ノ如キ電報越アリタル旨、達セリ
何事御参考迄

右及申（通）報候也

（寫 港水上署長）

記

二十日シマトル港ニ於テ起ツタ本社所有船日枝丸爆破陰謀事件ノ犯人ハ目
下バンクーバー警察デ嚴重取調中ナレガ、當時爆破ノ為メ溺死シタ首犯ロシマ
系カナダ人「ロルスオア」ハ五年前カナダプリーティツシユコロンビヤ大李農科ヲ

卒業セルが其ノ成績優秀ナリシタメ卒業ト同時ニ同大学ノ副手ヲ勤メ三年前辭職其後農園ヲ經營シ居リタルが失敗シ同地ノ無賴漢ノ群ニ投ジ始メテ共犯者カナダ國人「ジョーダバーテツダユ」ト友交ヲ結ブニ至リタルモノニシテ其ノ後屢ニ同地ノ支那人王某外數名ヲ知り之等ノ者ト秘密ニ會見シ王某ヨリ一千ドルヲ交付サレ今人ヨリ米國ヨリ日本ニ鉄物ヲ輸送スル日本船舶ニ対シテハ全部爆破セヨトノ密令トリホント社製ノ精巧ナル仕掛時計附爆薬五十數個ノ供給ヲ受ケ一月十三日夜密カニシヤトル市埠頭ニ侵入日枝丸侵入ノ機ヲ窺ヒ実行ニ着手シタルモノニシテ目下米國官憲ニ於テハ各港ニ多數警官ヲ派遣嚴重ナル取締ニ努メツアリ云々

主信		發信用		執務用	
附	甲				
	乙				
	丙				
	丁				
備考		1900年			

懸案

アノカ局

文書課長		文書課發照和拾參年貳月九日		發送済		淨書		正校(原稿)		(淨書)	
管情報部長		主第1課長		昭和三年二月一日起草		昭和三拾參年貳月九日		日附		附屬	
報二機通		第100信		昭和三拾參年貳月九日		日附		附屬			
受信人		日本郵船株式會社		河相情報部長		名件録記		係雜件			
名件		日枝丸爆破陰謀ノ件回答									
件		拜復陳者廣田大臣宛客月二十七日附客									
米官第七三號貴翰拜誦		御申越									
儀至極尤ノ次第ト思考致候											

外務省

寫送先

祕書官 會文儀人調文情條通米歐東
計書典事查化報約商洲亞亞

次大臣
官

電信課長

昭和十三年八月八日

第五二號
貴電合第三八二號ニ關シ（日枝丸爆破未遂事件ニ關スル件）
當館管内各州本邦船舶出入ノ諸港灣所在州知事及市長等ニ對シ御來
示ノ趣旨公文ヲ以テ申入レタル處何レモ充分保護方警察當局ニ訓令
セル旨鄭重ナル回答アリ現ニ當港碇泊中ノ郵船國際汽船等ニハ數日
前ヨリ水上及陸上警察官ヲシテ警戒セシメ居ル趣ナリ
米へ暗送セリ

廣田外務大臣

若杉總領事

昭和13 三八八二 暗

紐育 二月十日發
本省 十一日前着

米

記録部船舶運送係案件

公 信 案

外 務 省

條當省ノ關係各新聞及通信社等ニ
對シテモ貴翰ノ趣旨可然傳達致置候
尚關係外國當局ニ對シテハ貴翰ノ趣旨ハ
左米海軍九便ヲ通シ
通報ノ處置ヲ採リ置タルニ付右係
セテ御諒承相成度右回答スル得
貴意候
敬具

F-0145

0112

亞米利加局長

第一課

昭和十三年三月二日 接受

別紙添付

亞米利加
B.32
第一課

機密第四五

昭和十三年二月

在シアトル

領事館事務代理 石出 瑞

外務大臣 廣田 弘毅 殿

郵船日枝丸爆破未遂事件ニ關スル件

本件ニ關シテハ其後「カナダ」側ニ於ケテ埋査一應終了ト共ニ一月二十九日擔任檢事ハ「ワシントン」州上級裁判所ニ對シ *Perkins* 爆發物不法所持（五年乃至二十五年ノ懲役）及爆發物不法輸送（最高一年罰金一千弗）並共犯（科刑前者ニ同ジ）ノ廉ヲ以テ公訴ヲ提起シ且「ボンド」五萬弗ト決定セリ（聯邦法ニ比シ州法ノ

在シアトル日本領事館

二

方科罪重シ）被告側辯護士ハ之ニ對シ被告ガ *Perkins* 知ラズ脅迫ニヨリテ犯行ニ參加セル旨ヲ以テ公判廷ニ於テ無罪ヲ申立ツベキコトヲ豫想セラル、モ檢察當局ハ罪狀充分ナリト語リ居リ他面桑港ニ於ケル支那人關係背後關係ニ付テハ主任檢事タル *Waller* 自身近ク同地ニ出張取調ノ筈ニテ同人ニ於テモ當館トノ間ニ充分ノ聯絡ヲ約セリ

尙同人ヨリ入手セル本件公訴狀寫御參考迄別添ノ通り送付ス

本信寫送付先 在米大使 桑港 紐育 羅府 *ボートランド*

カナダ 晚香坡

在シアトル日本領事館

F-0145

0113

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

STATE OF WASHINGTON)
COUNTY OF K I N G) ss.

B. GRAY WARNER, being first duly sworn on oath deposes and says that he is the Prosecuting Attorney in and for the County of King, State of Washington, that he has read the foregoing information, knows the contents thereof and believes the same to be true.

B. GRAY WARNER

Subscribed and sworn to
before me this 29th day of
January, 1938.

FRANCES MAXSON

Notary Public in and for the State
of Washington, residing at Seattle.

Witness for State:

F. A. Hines
W. J. O'Brien
Marshall Scrafford
Ernest Yoris
J. H. Zumwalt
John Boyd
John R. Phillips
Rose L. Erickson
John B. Larson
Ed Bedford

P. W. Copestick
H. A. Brown
Jack Harlow
E. L. Chittenden
Ben Potter
John Doe Montgomery
John Doe Stetten
Saul Haas
J. L. Green

COUNT III

And I, B. GRAY WARNER, Prosecuting Attorney aforesaid do further charge the said GEORGE HENRY PARTRIDGE alias FRANK ROMERO with the crime of CONSPIRACY, committed as follows, to-wit:

He, said GEORGE HENRY PARTRIDGE alias FRANK ROMERO, in the County of King, State of Washington, on or about the 19th day of January, 1938, unlawfully devising, designing and intending to conspire to commit a crime, to-wit: the wilful destruction of the SS Hiye Maru, a vessel, by bombing said ship, wickedly, fraudulently and unlawfully did conspire, confederate and agree together with one Rolphe Maurice Forsythe, since deceased, to wreck, burn, sink, scuttle or otherwise injure or destroy said MS Hiye Maru, by bombing the same.

Contrary to the statute in such case made and provided and against the peace and dignity of the State of Washington.

B. GRAY WARNER

Prosecuting Attorney, King County

F-0145

0114

Copy

IN THE SUPERIOR COURT OF THE STATE OF WASHINGTON FOR KING COUNTY

STATE OF WASHINGTON,

Plaintiff,

vs.

GEORGE HENRY PARTRIDGE, alias
FRANK ROMERO,

Defendant.

No. 19735

INFORMATION

I, B. GRAY WARNER, prosecuting attorney in and for the County of King, State of Washington, come now here in the name and by the authority of the State of Washington, and by this information do accuse GEORGE HENRY PARTRIDGE alias FRANK ROMERO of the crime of POSSESSION OF EXPLOSIVE DEVICES, committed as follows: to-wit:

He, said GEORGE HENRY PARTRIDGE alias FRANK ROMERO, in the County of King, State of Washington, on or about the 19th day of January, 1938, together with one Rolphe Maurice Forsythe, now deceased, wilfully, unlawfully, and feloniously, and with intent to use the same and consider the same to be used for an unlawful purpose, did have in his possession and under his control an explosive device, to-wit: a large bomb containing three hundred and sixty-nine sticks of dynamite, connected with a time device, the said aforesaid, unlawful purpose and intent being that of bombing and destroying the Motorship Hiye Maru.

Contrary to the statute in such case made and provided and against the peace and dignity of the State of Washington.

COUNT II.

I, B. GRAY WARNER, Prosecuting Attorney aforesaid, do further accuse GEORGE HENRY PARTRIDGE alias FRANK ROMERO of the crime of UNLAWFUL TRANSPORTATION OF EXPLOSIVES, committed as follows, to-wit:

He, said GEORGE HENRY PARTRIDGE alias FRANK ROMERO, in the County of King, State of Washington, on or about the 19th day of January, 1938, at the time and place referred to in Count I herein and connected therewith, wilfully and unlawfully did transport certain explosives, towit; dynamite in certain vehicles, to-wit: public motor buses and street cars in the City of Seattle, said county and state, contrary to law.

Contrary to the statute in such cases made and provided and against the peace and dignity of the State of Washington.

F-0145

0115

電信課長

大臣
次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 儀典 文書 會計 秘書官

寫
送
先

昭和13 四〇六〇 暗

オタワ 二月十二日後發
本省 十三日後着

米

廣田外務大臣

木下代理公使

第二三號

往電第一〇號ニ關シ

一月三十一日附本官公文ニ對シ十一日附外相公文ヲ本十二日送付越
シタル)處右回答ノ要旨左ノ通り

(一)加奈陀政府ハ本事件ヲ重視シ精密ナル調査ヲ行ヒ居レル處右調査
ニ依リ本件ハ晚香坡在住「フオルシス」ノ企圖セルモノト認メラ
ル其ノ動機ハ未タ明カナラサルモ同人ハ元來斑氣ニシテ最近其ノ
専門トセル雖ノ雄雄鑑別術ニ對シ日本人ノ競争ニ付煩悶シ居タル

外
務
省

門/第8項0日2

事實アリ

(一)一月五日同人ハ情ヲ知ラサル家族ノ一人ヨリ指環ヲ得テ之ヲ質入
シ資金ヲ入手セリ同月八日晚香坡ニテ「ダイナマイト」ヲ購ハン
トセルモ失敗シ十三日同市ヲ立去レリ

(二)「パトリツジ」ニ付テハ本件企圖ノ受動的共同者ト認ムル以外
ノ證據ヲ發見シ難シ

(三)徹底的調査ヲ爲セルモ「フオ」カ他ノ個人又ハ加奈陀ノ公共團體
ニ依リ本企圖ヲ教唆若クハ幫助サレ又ハ同人カ政治的團體ノ一員
ニシテ本件企圖ニ關シ何等カノ陰謀アリタリト信スヘキ理由ヲ發
見スルヲ得ス且同人カ前記資金以外他ヨリ資金ヲ得タル證據ヲ舉
ケ得ス

外
務
省

本邦船舶運送難問係難件

F-0145

0116

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

NYK

加米利加局

公第 四六 號

昭和十三年二月十四日

在加奈陀

臨時代理公使 木下武雄

外務大臣 廣田弘毅殿

日枝丸事件ニ関スル加奈陀政府公文送付件

本件ニ関シ本月中旬拙電申達ノ次第アリタル處ニ自工日附加奈陀外相
公文寫別添送付ス

本信寫送付先 米國、晚香坡、シアトル

在カナダ日本公使館

(五) 右兩人カ加奈陀ヲ去リタル後ノ行動其ノ他ニ關スル報道ハ加奈陀
政府ノ爲シ能ハサル所ナルニ付右ニ關シテハ米國當局ニ就キ通報
ヲ得ラレ度シ
(六) 本件企圖ニ加奈陀人カ責任ヲ有スルコトヲ加奈陀政府ハ遺憾トシ
且右企圖カ全然不成功ニ終リタルコトヲ満足ニ思ヒ居ル旨ヲ日本
政府ニ傳達アリ度シ
(七) 加奈陀當局ハ加奈陀領水ニ在ル一切ノ商船ノ保護ニ付萬全ノ努力
ヲ拂ヒ居レル處右努力ハ勿論將來モ繼續セラルヘシ
公文寫郵送ス
米、晚香坡へ轉電シ、紐育、桑港、「シヤドル」へ暗送セリ

外務省

別紙添附 昭和十三年三月拾四日接受

立米 13.3.14 第一號

On the 5th of January Forsythe obtained money to finance his venture by pawning rings obtained from a member of his family who was not aware of his intentions. There is reason to believe that on the 8th of January he attempted to purchase dynamite in Vancouver. The merchant to whom he applied, not knowing the applicant, refused to sell, thinking the dynamite might be used for safeblowing. The police were warned of the application but were unable to find the applicant. On the 13th of January, Forsythe left Vancouver and was not heard of again until the news of his death appeared in the press.

No evidence has been found to indicate that George Henry Partridge, who is reported as admitting accompanying Forsythe to Seattle, was more than a passive participant in the project.

Thorough investigation has indicated that there is no ground for believing that Forsythe's activities were instigated or assisted by any other individual, or by any official or unofficial organization in Canada, or that he was a member of any organization of a political nature, or that anything in the nature of a plot or conspiracy was involved. The Canadian authorities have not found the slightest evidence that he secured funds elsewhere than, as has been shown above, from his unsuspecting family.

The Canadian Government is not in a position to furnish any information as to the activities of Forsythe

or

or Partridge after they left Canada, or to give any particulars regarding the arrest of Partridge, as to which inquiry is made in your note. This is no doubt a matter upon which information is being sought by the Imperial Japanese Government from the authorities in the United States of America.

I shall be obliged if you will express to the Imperial Japanese Government the regret of the Government of Canada that these Canadian nationals should have been responsible for planning to damage a Japanese vessel, and their satisfaction that the project was wholly unsuccessful.

Every effort is made by Canadian authorities to protect all merchant vessels entering Canadian waters and these efforts will, of course, continue.

Accept, Sir, the renewed assurances of my highest consideration.

(Signed) O. D. SKELTON
for

Secretary of State for
External Affairs.

- COPY -

DEPARTMENT OF EXTERNAL AFFAIRS - CANADA

No. 2

Ottawa, 11th February, 1938.

Sir,

I have the honour to acknowledge receipt of your note of the 31st of January, 1938, No. 2, regarding the attempt to damage the Japanese Motor Ship "Hiye Maru" which occurred on the 20th of January, 1938, in the harbour of Seattle, State of Washington, United States of America.

This matter has already engaged the earnest attention of the Canadian Government and a detailed and careful investigation has been conducted by the appropriate agencies. As a result of this investigation it now appears that the criminal project of inflicting injury upon the vessel in question was conceived by Rolphe Maurice Forsythe, a resident of Vancouver, recently unemployed. No conclusive evidence as to his motive has been obtained. Enquiries in Vancouver, however, indicated that during recent months he had been brooding over the competition of Japanese chick-sexing experts as this was a field in which Forsythe himself had become an authority.

There is evidence from those who knew him to indicate that Forsythe was of a moody and eccentric disposition and of unstable mentality.

On

T. Kinoshita, Esquire,
Charge d'Affaires,
Japanese Legation,
Ottawa.

F-0145

0119

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

電信課長

昭和13

四三五二 暗

桑港 二月十五日後發
本省 十六日前着

米

大臣

廣田

外務大臣

鹽崎總領事

第三四號

往電第二四號ニ關シ

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人事 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

本邦船舶遭難事件

當地警察係官館員ヲ來訪シ其ノ後同署ヨリ爲念晚香坡市警察ニ照會セル處「パトリッジ」ヲ更ニ追及ノ結果共犯者「フオーアサイト」カ客年十二月中來桑支那總領事館其ノ他ト何事カ打合ノ上計畫セル疑生シタルモ何分「フオー」死亡後ノコトトテ支那側トノ關係等ハ詳細突止メ得ストノ趣旨ノ回答アリ依テ當地警察ニテハ支那總領事館及「シックス、カンパニーズ」方面ニ手ヲ廻シ見タルモ何分本件カ

外務省

桑港限リノ問題ナラハ兎ニ角犯罪現場ニアサル當地ニテハ手掛ヲ得ルコト頗ル困難ニシテ未タ何等確證ヲ握リ得サルハ遺憾ナリト述ヘ尙當地ニ關スル限リ今後此ノ種事件ノ再發防止ニハ警察トモ萬全ノ注意ヲ拂フヘシト語レル趣ナリ
冒頭往電ノ通り暗送セリ

外務省

F-0145

0120

如外諸方面ニ大凡
 「この子」
 々々へ多量に
 如承知

大阪商船株式會社

吉澤外務省亞米利加局長殿

昭和十三年二月十八日



田會社

省



拜啓時下益御清適奉賀候陳者本月十五日付貴書ヲ以テシアトルニ於ケル日枝丸爆破陰謀事件ノ發生ニ鑑ミ在米齋藤大使及ヒ在加木下代理公使ヨリ當該國政府ニ對シ又各地駐在領事ヨリ邦船寄港地所在州及地方當該官憲ニ對シ夫々御申入レ相成候結果今後各地共邦船ノ出入港ニ當リ一層取締ヲ強化シ水上及陸上警察官ヲシテ充分警戒注意ヲ加ヘシムルコト、相成候趣御通報被下忝拜承種々御配慮ニ預リ申候段誠ニ難有奉深謝候何卒此上共宜敷御願申上度右不取敢御請旁如斯御座候

敬具

(附七)

庶各外第二四號

外務省

吉澤亞米利加局長殿

昭和拾參年貳月拾九日

日本郵船株式會社
取締役社長

登

謹啓貴下益々御清祥ニ被爲沙奉慶賀候陳者
弊社船日枝丸爆破陰謀事件ニ關シ本月十五日附貴翰難有拜誦仕候
事件後ニ於ケル弊社北米就航各船ハ幸何等異狀無ク航行罷在候段偏ニ
貴省格別ノ御高配ニ因ルモノト深ク感佩罷在候
右不取敢貴翰御請旁々御厚禮申上度如斯御座候

敬具

(213 S-12)

F-0145

0123

國立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

客米外第四七號

外務省亞米利加局
第一課長 石井 康殿



日本郵船株式會社
船客課長

永島 義



昭和十三年二月廿一日

拜啓

日枝丸事件ニツキテハ格別ノ御配慮ヲ賜リ難有奉存候同事件ノ影響ニ
付上海支店ヨリ別紙寫ノ通り申越候間御高覽被成下度候

敬具

Mis 3

(209 S 12)

F-0145

0124

NIPPON YUSEN KAISHA

SHANGHAI.

7th February, 1938.

COPY

The President,
Nippon Yusen Kaisha,
Passenger Department,
Tokyo

Dear Sir,

Effects of China Incident on
Passenger Business.

We attach hereto copy of letter from Mr.
H. G. Brewster-Gow together with our reply which
are self-explanatory.

The incident of the attempted bombing of
our ms "Hiye Maru" has resulted in some cancellations
and in spite of our endeavours to minimise this affair
foreigners are apprehensive that a more determined and
perhaps successful attempt may be made at a later date.

We have also been appraised by certain
passengers that they would not use our European service
owing to the danger of a bombing attempt at some port
en route, particularly at Hongkong or Singapore.

We much regret to present this gloomy picture
but the confidence of our friends and patrons are evi-
dently shaken and in spite of all our efforts we do not
expect good results while this state of affairs exists.

Indications are that 1938 travel will be a
long way below par owing to the many families who were
due for Home Leave this year, sending their families to
their Homelands when they were evacuated last summer.

We are keeping a very close watch on the sit-
uation and will report to you from time to time if any
changes occur.

Yours faithfully,

NIPPON YUSEN KAISHA, SHANGHAI BRANCH.

(Signed) S. Shimura

Sub-Manager

NIPPON YUSEN KAISHA

SHANGHAI.

7th February, 1938.

H. G. Brewster-Gow, Esq.,
c/o Public Health Department,
Shanghai Municipal Council,
Shanghai

Dear Sir,

We thank you for your favour of the 3rd instant
in which you draw our attention to press reports regarding
incidents in America and England against passengers and
cargo on our fleet, in reply we would advise that there is
no boycott or refusal to handle passengers and general
cargo in these countries although we know of the existence
of Chinese Agents who are endeavouring to hamper us in
operating our fleet. However, the authorities concerned
have promised us their full co-operation and we feel sure
these occurrences will be quickly suppressed.

According to our information our passengers have
not been subjected to any inconvenience whatsoever and we
do not anticipate any interruption in schedules or the
proper handling of passengers and their baggage, in fact we
have very recently been favoured with the patronage of the
wife of a highly placed British Government official which
in itself is proof of the official confidence of the British
authorities.

We thoroughly understand your anxiety regarding
the safety and comfort of yourself and family and we can only
give you our confident assurance that the N.Y.K. will do every-
thing in its power to discharge our trust as a common carrier.

In conclusion, we desire to thank you for your
esteemed patronage and friendship and we ask you in return to
place your confidence in us being able to fulfill our obligations
to you.

Yours faithfully,

NIPPON YUSEN KAISHA, SHANGHAI BRANCH

(Signed) S.

Sub-Manager.

c.c.:
Tokyo

F-0145

0125

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

C O P Y

c/o Public Health Dept.,
S. M. C.,
Hankow Road,

February 3rd, 1938.

The Manager,
Nippon Yusen Kaisha,
Shanghai

Dear Sir,

It is with much reluctance that, in view of the frequent appearance of articles in the press relating to the boycotting of N.Y.K. ships both in England and America, I am constrained to ask what guarantee there is of passengers and cargo being safely disembarked and unloaded respectively in ports of these countries?

Does the N.Y.K., under the circumstances, accept passengers and cargo at passenger's own risk?

I myself and family have booked passages in the "Taiyo Maru" sailing in April whilst our baggage and furniture is being shipped via Suez. Are we sure of being landed without incident?

As an old passenger and friend of the N.Y.K. I am willing to take the risk and would like to do whatever lies in my ability to assist you, but, in the event of being held up at the last moment without a passage, what could we do? as I am informed that bookings by other lines are almost full up for April and May.

Trusting there is a brighter future for the N.Y.K., I remain,

Yours very truly,

H. G. Brewster-Gow (Signed)

F-0145

0126

發信用執務用				懸 案
主信	3	1	4	
附甲	3	1	4	
乙				
丙				
丁				
備考				

文書課長	文書課發送 昭和拾貳年貳月廿日發送済	淨書	正校(原稿)	(淨書)
	主 亞米利加局長	主 第一課長	昭和十三年二月十六日起草	
米一機密令第八一九號	昭 昭和拾貳年貳月廿日 附 附屬	名 人 信 受	名 人 信 發	
陸軍 海軍 逕信 各次官		名 件 録 記	堀 次 官	
日枝丸爆破陰謀事件ニ關スル件		本件ニ關シ今般在加倉院木下代理ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタ ルニ付何等御參考迄右茲ニ送付ス (別紙オタフ來電第二三號寫作成添附ノコト)		
公 信 案		外 務 省		

22 24

F-0145

0127

電信寫

秘

珍

日抄丸

爆破陰謀

昭和十四年四月〇日 暗 オタワ 二月十二日 依被
ナニキ 本省 十三日 徹着
在加奈陀 木下代埋公使館電報

第二三號

往電第一〇號ニ關シ

加奈陀側ヨリ

左記取ビドノ

日板九爆破陰謀事件ニ關スル

三月三十一日附本官公文ニ關シ十一日附外補公文ヲ本官ニ送付過

セリ

(一) 加奈陀政府ハ本事件ヲ重視シ精査ナル調査ヲ行ヒ居レル處右調査

ニ依リ本件ハ監督被在座「フオルシス」ノ企圖セルモノト認メラ

ル事ハ加奈陀ハ非ト認メナラブルモ國人ハ非ト認メテ最近其ノ

企圖ハ加奈陀ニ關シテ日本ノ警備ニ付煩悶シ居タルカ

事案アリ

放物レタス

二月五日同人ハ情ヲ知ラサル家族ノ一人ヨリ指環ヲ持テ之ヲ買入

シ資金ヲ入手セリ同月八日晚香港ニテ「ダイナマイト」ヲ購ハシ

トセルモ失敗シ十三日同市ヲ立去レリ

(二) 「ポートリッジ」ニ付テハ本件企圖ハ受動的共同謀ト認ムル以外

ノ證據ヲ發見シ難シ

(三) 徹底的調査ヲ爲セルモ「フオ」カ他ノ個人又ハ加奈陀ノ公共團體

ニ依リ本企圖ヲ教唆若クハ幫助サレ又ハ同人カ政治的團體ノ一員

ニシテ本件企圖ニ關シ何等カノ陰謀アリタリト信スヘキ理由ヲ發

見スルヲ得ス且同人カ前記資金以外他ヨリ資金ヲ得タル證據ヲ舉

ゲ得ス

(三) 「ポートリッジ」ニ付テハ本件企圖ニ付受動的共同謀ト認ムル以外ノ證據ヲ發見シ難シ

秘

電信寫

付送アリ

(四)

右兩人加奈陀ヲ去リタル後ノ行動其ノ他ニ關スル報道ハ加奈陀政府ノ爲シ能ハサル所ナルニ付右ニ關シテハ米國當局ニ就キ通報ヲ待ラレ度シ

(六)

本件企圖ニ加奈陀人カ責任ヲ有スルコトヲ加奈陀政府ハ遺憾トシ且右企圖カ全然不成功ニ終リタルコトヲ満足ニ思ヒ居ル旨ヲ日本政府ニ傳達アリ度シ

(五)

加奈陀當局ハ加奈陀領水ニ在ル一切ノ商船ノ保護ニ付萬全ノ努力ヲ拂ヒ居レル處右努力ハ勿論將來モ繼續セラルヘシ

公文書郵送ス

米。陸軍省ハ轉付シ、陸軍省、海軍省、一シヤトルへ暗送セリ

信用		執務用	
主信	2	1	3
附	甲	2	1
	乙	2	1
	丙		
局	丁		
備考			

懸案

文書課長

文書課發送 昭和拾貳年貳月廿五日發送済

淨書

正校(原稿)

主 管 亞米利加局長

主 任 第一課長

昭和十三年二月十九日起算

米一機密合第八二一號

昭和拾貳年貳月廿貳日

日附 附屬

受 信 人 名

通信 次官

堀 次官

名 件

日本郵船会社 渡辺 副社長

名件録記

日枝丸爆破未遂事件ニ関スル件

今般在シアトルに在る領事館事務代理より本件其ノ

後ノ経過並ニ右ニ因ル同地新聞論調別紙字ノ通報

告越セルニ付何事即参考迄右並許送付ス

公 信 案

(別紙)シアトル米信オミラウスオミラウス米信オミラウス

省

亞米利加局

機密第一一〇號

昭和十三年二月二十四日

在桑港

總領事 鹽崎 觀三

外務大臣 廣田 弘毅 殿

日枝丸爆破未遂事件ニ關聯シ本邦船舶
保護方ニ關スル件二月初旬閣下發在米大使宛電報ニ關シ當地警察署長及州知事ニ對
シ本邦船舶ニ對シ一層保護方申入レ置キタルカ右ニ關スル關係當
局トノ往復文寫別紙寫ノ通御參考迄送付ス

在桑港日本總領事館

別紙添付

記

22 33

STATE OF CALIFORNIA
GOVERNOR'S OFFICE
SACRAMENTO

COPY

February 10, 1938

Hon. Kanzo Shiozaki
Consul General of Japan
22 Battery Street
San Francisco, California

Dear Consul General Shiozaki:

This will acknowledge your letter of February 8 in which you inform me of the recent bombing plot which was attempted in Seattle, Washington, against the Japanese Steamer "Hiye Maru".

I note you request steps be taken by the proper authorities in the various ports of California to exert every precaution to prevent a similar occurrence. I shall be pleased to cooperate with the authorities of this State in preventing undue lawlessness to the ships that visit the ports.

With kind regards, I am

Very sincerely yours,

Frank F. Merriam
Governor of California

FFM:AS

February 8th, 1938

COPY

Hon. Frank F. Merriam
Governor State of California
State Capitol
Sacramento, California

Sir:

I have the honor to state that you are already apprised of the bombing plot which was attempted, but fortunately frustrated recently in Seattle, Washington against the Japanese Steamer "Hiye Maru", while in the harbor of that city.

Because of the serious nature of the plot, both the Canadian and the United States authorities have taken action for investigating the whole matter in conjunction with Seattle police.

Considering the apprehension caused to the Japanese both in America and Japan, I take the liberty of requesting that you be good enough to communicate with the proper authorities in the ports of California in order that they may take precautionary measures to protect Japanese ships coming in and going out of those ports, against the perpetration of such an act as occurred in Seattle.

Your kind attention in this matter will be most highly appreciated by me.

Respectfully yours,

Kanzo Shiozaki
Consul General of Japan

F-0145

0131

February 8th, 1938

Hon. William J. Quinn
Chief of Police
Hall of Justice
San Francisco, California

COPY

Dear Sir:

I am writing this letter to express my deep appreciation of your thoughtful attention in patrolling the S.S. "Taiyo Maru" when it was leaving this port for Japan last Thursday afternoon.

As I already explained to you in my previous letter, the bombing plot incident which occurred recently in Seattle, Washington, has caused most serious concern not only to the people on the Pacific Coast, but also to the people in Japan.

Although I fully realize the measure of precautions you are now taking in order to prevent a recurrence of such an unpleasant incident, yet I take this occasion to request that you kindly continue to take necessary measures against any kind of plot which might be perpetrated against Japanese vessels coming and going out of this port.

Your kind attention to this matter will be most gratefully appreciated.

Sincerely yours,

Kanzo Shiozaki
Consul General of Japan

CITY AND COUNTY OF SAN FRANCISCO
Office of
CHIEF OF POLICE
HALL OF JUSTICE
KEARNY AND WASHINGTON STREETS

COPY

February 9, 1938

Hon. Kanzo Shiozaki
Consul General of Japan
22 Battery Street
San Francisco.

Dear Sir:

I have for acknowledgment your letter of February 8th and this is to assure you that every precaution will be taken to protect Japanese vessels entering and leaving the port of San Francisco. Please do not hesitate to call on us if at any time circumstances come to your attention which you feel need special police action.

Assuring you that we are at your service at all times, I am

Sincerely yours,

(Signed) Wm. J. Quinn
Wm. J. Quinn
Chief of Police.

WJQ/AS

F-0145

0132

懸案		發信用 職務用	
主信	2	1	3
附甲	2	1	3
附乙	2	1	3
附丙			
附丁			
備考			

公文書	信	案
本件ニ關シ今般在シト石井米一課長ヨリ別紙寫ノ通り報告アリタ ルニ付何等御參考迄右茲ニ送付ス (別紙ニ付テ來信第四五號寫成添附ノコト)		
名件	日枝丸爆破未遂事件ニ関スル件	
名	人	信受
	日本郵船会社 渡辺副社長	近信次官
名件録記	名	人信發
	石井米一課長	堀次官
主 文書課發給 昭和拾參年參月 七日發送済 淨書 亞米利加局長 主 第一課長 正校(原稿) (淨書) 米一機密 第一〇二九號 昭 昭和拾參年參月五日 日附 附屬 昭和十三年三月二日起草		

庶各外第三二號

外務省亞米利加局

第一課長 石井 康 殿

昭和十三年三月貳日

謹啓 愈々御清祥ノ段奉慶賀候 陳者二月廿二日附貴翰米一機密合第
八二一號ヲ以テ

一、日枝丸爆破未遂事件ニ關スル件

ニ就キ沙市石出領事館事務代理殿ヨリノ詳細報告ヲ御移牒賜ハリ難有
拜誦仕リ候種々御高配ノ段奉鳴謝候

右御請旁々御厚禮申上度如斯御座候

敬 具

日本郵船株式會社
取締役 谷

電信課長

大臣

次官

東亞 歐洲 米商 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 祕書官

寫送先

昭和13

七〇二一

暗

シアトル
本省

三月十二日後發
十三日前着

米

廣田外務大臣

佐藤領事

第一六號

日枝丸爆破未遂事件犯人 Partridge に關スル第一回公判ハ來ル十四日開廷ノ筈ナル處係檢事談ニ依レハ支那側又ハ共產黨ニ對スル背後關係ニ付遂ニ何等ノ證據ヲ發見スルニ至ラス又桑港ニ派遣セル刑事ノ報告ニ依ルモ全然手懸ナキ趣ニテ旁論告及判決共單ナル爆發物法違反事件ニ終始スヘキ見込ナリ
米、紐育、桑港、市俄古、「ポートランド」、晚香坡、「オタワ」ヘ暗送セリ

外務省

亞米利加局

公第

九七

號

昭和十三年三月十二日

在加奈陀

臨時代理公使

木下武雄

外務大臣

廣田弘毅殿

附屬航誌米
係

日枝丸爆破未遂事件記事掲載雜誌送付件
本件雜誌 Official Detective 既御入年カトハ存スル為念別便ニ送付ス

在カナダ日本公使館

F-0145

0134

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

發信用 領務用			
主信	2	1	3
附甲	2	1	3
乙			
丙			
丁			
備考			

懸案

公 信 案 本件ニ關シ今般在「シ」ト「ハ」ニ「ハ」ル「ハ」ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタ ルニ付仰等御參考迄右茲ニ送付ス (別紙「シ」ト「ハ」ニ「ハ」ル「ハ」ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタ (別紙「シ」ト「ハ」ニ「ハ」ル「ハ」ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタ)	名 件 日枝丸爆破未遂事件 (別紙「シ」ト「ハ」ニ「ハ」ル「ハ」ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタ)	名 人 信 受 逕信次官 日本郵船会社 渡辺副社長	名 人 信 發 堀又次官 石井米一課長	主 管 亞米利加局長 主 任 第一課長 米一機密第一二〇五號 昭和拾參年參月拾六日附 附屬	文書課長 文書課發送 昭和拾參年參月拾七日發送済 淨書 正校(原稿) 昭和十三年三月十五日起草
---	--	------------------------------------	---------------------------	--	--

16 118

庶各外四四號
 外務省亞米利加局
 第一課長 石井 康 殿
 日本郵船株式會社
 副社長 渡邊水太郎

昭和十三年三月十四日

拜復愈々御清榮之段奉賀候
 陳者三月五日附貴翰米一機密合第一〇二九號ヲ以テ當社船日枝丸爆破
 未遂事件ニ就キ在シアトル領事代理石出瑞穂殿ヨリノ詳細ナル御報告
 御移牒賜リ難有奉鳴謝候
 右御請旁々御禮申述度如斯御座候

敬 具

庶各外第四九號

外務省亞米利加局
第一課長 石井 康殿

昭和十三年三月十九日

拜啓 益々御清榮奉賀候
陳者日枝丸爆破未遂事件公判ニ就キ三月十六日附貴翰米一機密合第一
二〇五號ヲ以テ在シアトル佐藤領事ヨリノ電報寫御移牒賜リ誠ニ有難
奉深謝候
右御請旁々御禮申述度如斯御座候

敬 具

日本郵船株式會社
取締役社長 大谷 登

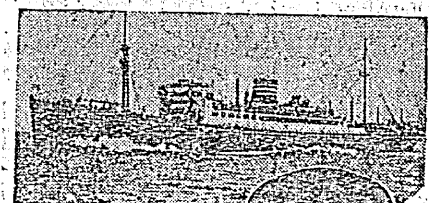
(931 1-13)

東京日日新聞 昭和十三年三月十九日

日枝丸事件、果して 背後に支那の魔手

共犯パトリック、法廷で陳述
桑港 兩領事が資金提供

【ワシントン特派員電】十五日日米合衆新聞は、日枝丸爆破未遂事件の真相を明らかにするとして、支那の魔手が背後にあり、共犯パトリックが法廷で陳述し、桑港の兩領事が資金を提供したと報じた。



写真は日枝丸と死んだ主犯フオーサイト

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

昭和13 八〇二八 略 シヤトル 三月廿一日後發 米
本省 廿二日後着

廣田外務大臣

佐藤領事

第一九號

往電第一六號ニ關シ

十四日州上級裁判所ニテ開廷五日ニ亘リ證人訊問三十名ニ及ヒタル
カ被告辯護人ハ極力陪審員ノ同情ニ懇ヘ被告ハ世情ニ疎キ田舎青年
ニシテ一ニ主犯 Forsythe ニ操ラレタルニ過キサル旨力説シ且被告ハ
犯行ヨリ脱退或ハ犯罪ヲ不成功ニ終ラシメンカ爲凡ユル手段ヲ講シ
タルモ終始脅迫ニ依リ參加ヲ強ヒラレタルモノニシテ偶々主犯者カ
溺死セルノ故ヲ以テ被告ヲ罪セントスルハ誤レル旨強調シ扱テハ一

外務省

「パナイ」事件等ヲモ持出シ同情ヲ煽リタルカ檢事ハ之ヲ駁シテ辯護
人ノ態度カ陪審員ニ偏見的先入主ヲ與ヘントスルヲ難シ被告ハ取調
ニ際シ曾テ脅迫ノ事實ヲ口ニサヘセス且辯護人ノ言フカ如ク無智ナ
ラス各證人ノ證言ニ依ルモ犯意充分ト認ムトテ共犯及爆發物不法所
持ノ罪ヲ以テ論スル所アリタルカ陪審員ハ審議三十二時間ヲ費シタ
ル後十九日夜遂ニ無罪ノ表決ヲ下シタリ之ニ對シ聯邦 District Attorney
ハ満足セス事件ヲ取上クルコトトナリタルカ係官ノ決定迄ニハ尙一
兩日ヲ要スヘキ見込ナリ
米、加、晚香坡ヘ轉電シ桑港、羅府、「ボートランド」ヘ暗送セリ

外務省

亞米利加局

第一課

昭和三年四月拾九日

亞米利加
13.4.19
第一課

機密第~~七~~三號

昭和十三年三月二十五日

附屬添附

在シヤトル

領事 佐藤 由巳

外務大臣 廣田 弘毅 殿

日枝丸爆破未遂事件公判ニ關スル件

本件公判ニ關シテハ~~張~~審ノ結果被告 Partridge ガ無罪ヲ宣セラ

レタルコト並ニ之ト同時ニ聯邦係官ニ於テ新ニ之ヲ取上~~目~~目下取
調中ナルコト幾ニ電報ノ通りナル處右公判要領書及~~張~~審員ニ對ス
ル判事注意書寫御參考迄別添ノ通り送付ス~~ル~~御閱覽相成度

本信寫送付先 (公判要領譯文以外添付省略)

在シヤトル日本領事館

在米大使 桑港 羅府
在加公使 晚香坡
ポートランド

在シヤトル日本領事館

F-0145

8:38

第一日公判

一、先ヅ裁判長ハ被告ニ對スル「チャージ」ガ爆發物不法所持並不法輸送及共犯ノ罪ナル旨ヲ宣シ

一、次イデ檢事ハ本事件ハ現下ノ日支事變ニ何等關係ナキ旨ヲ聲明シタル後原被兩告共頗ル慎重ナル審査ヲ遂ゲタル上陪審員十二名（内八名婦人）ヲ選定シタル後

一、檢事ハ公訴事實ノ説明ニ入り犯行ノ大要ヲ述ベタルガ其背後關係ニ付テ「被告ハ溺死セル「フオーサイス」ト共謀シ支那又ハ露國大使ニ接近シ軍需品輸送ニ從事スル日本商船ヲ爆破センコトヲ企テ其實行手段トシテ「ダイナマイト」ヲ積メル「スピードボート」ヲ放ツコト又ハ直接「ダイナマイト」ヲ目的船ニ

在シヤトル日本領事館

二

裝置セントシタルモノニシテ之等ノ事實ハ犯人ノ供述又ハ證人ニヨリテ之ヲ立證シ得ベシ」ト云ヘリ

一、之ニ對シ被告側辯護人（二名）ハ被告ハ晚香坡ニ於テ失業當時主犯「フオーサイス」ト友人關係ヲ生ジタルモノナルガ「フ」ハ同地支那領事ニ本計畫ヲ打明ケ「スピードボート」ヲ買入レントシタルモノヲ拒絕セラレタルヲ以テ更ニ在桑港支那領事ニ相談スベシトノ趣ニテ約一週間不在ナリシガ同人ガ歸來セル時被告ハ既ニ就職シ得タルヲ以テ極力犯行ヨリ脫退セントシタルモノ「フ」ニ於テ肯ゼズ「シアトル」渡航ノ際ノ如キモ兇器ヲ持テル三人ノ怪漢ニ脅迫セラレ乗船セシメタルガ其後モ百方其實行ヲ裏切ラントセシモ「フ」ハ拳銃ヲ擬シテ犯行ヲ迫リタル旨

在シヤトル日本領事館

説明シ

一、最後ニ證人訊問ノ上明朝更ニ裁判ヲ續行スルコト、シテ閉廷

第二日 三月十五日

證人訊問ニ入り係刑事 Capt. Seratford、税關吏等十名ニ及ビタル
 が刑事「ス」ハ犯人「フ」ガ溺死ヲ告ゲラレタル後ニ至リ當初何
 等情ヲ知ラザリシトノ答辯ヲ翻シテ「ス」ツケース」内容ガ爆藥
 ナルコト時計仕掛ハ犯人自ラ裝置セルモノナルコト等ヲ自白シ且
 自ラ警官ニ對シ略圖ヲ描キテ説明ヲ與ヘタルコト、犯人ハ「フ」
 ガ拳銃ヲ以テ脅迫セルガ如キ事實ヲ告ゲザリシコト等證言シ、税
 關吏亦犯人訊問ノ際何等「フ」ニ脅迫セラレタル事實ヲ語リタル

在シヤトル日本領事館

コトナキ旨證言ス

被告辯護人ハ「ス」ツケース」内容ハ「ダイナマイト」ニ非ザリ
 シヤモ知ルベカラズトテ法廷ニ之ヲ搬入セラルベキコトヲ要求シ
 タルモ檢事之ニ反對ス

第三日 三月十六日

引續キ證人訊問ヲ行ヒ先ヅ市刑事長 Capt. Torris ハ Timing device
 ハ犯人自ラ「タコマ」ニ於テ裝備セルコトヲ自供セル旨證言
 次ニ移民官 Zumbalt 起チテ審問ノ際「フ」ガ拳銃ヲ以テ脅迫セル
 ガ如キコトヲ聽カザリシ旨ヲ述べ次ニ
 刑事 Lt. Higgs ハ右「ス」ツケース」内容ハ爆發物ナリシコト

在シヤトル日本領事館

ヲ明ニシ且犯人ハ「タイミング、デイバアイス」ヲ自ラ裝置セルコト、警官ニ圖解ヲ描キ示シタルコト犯人ハ「フ」ガ「ダイナマイト」ヲ箱詰スル際之ヲ手傳ヒ内容ノ何物タルカヲ知レリト自白セルコト其他犯人ノ足取等ヲ詳細ニ説明シ從來發表セラレ居ラザル他ノ犯行計畫トシテ犯人邦船ニ乗組ミテ約三十哩ヲ距ル地點ニ於テ~~ヌ~~「バ」ガ無電ヲ破壊セル上海中ニ飛入り~~ヌ~~ハ他ノ助手ト共ニ爆發物ヲ裝置セル小船ヲ放チテ船ヲ爆破スルト共ニ「バ」ヲ救出セン計畫モアリタル旨ヲ述ベ

同^{判事}シク Capt. O'Brien 犯人訊問ノ際屢々「フ」ガ拳銃ヲ所持シ又ハ「バ」ヲ脅迫セルコトアリシヤヲ質シタルモ被告之ヲ否定セリト答フ

在シヤトル日本領事館

De Post 社火藥庫管理人 C. D. Rindia ハ一月十五日乃至二十日ノ間ニ當時變名ノ「フ」ニ「デュボン」社製「ダイナマイト」八箱及雷管約五十個並防水劑一罐ヲ供給セルコト、其後警察ヨリ保管方ヲ依托セラレタル「ダイナマイト」ハ右ニ符合スルコト、右ハ水中用ノ特製品ニシテ二十四時間ハ水中ニアリテモ爆發ノ性能ヲ失ハザルモノナルコトヲ證言ス

此時被告辯護人昨日ニ引續キ更ニ右^ヌ所謂「ダイナマイト」ハ證據物件トシテ法廷ニ齎シ得ルニ拘ラズ寫眞ヲ以テ之ヲ「ダイナマイト」ト斷ズルヲ不當ナリト主張セルガ

判事ハ之ニ對シ各證人ハ被告自身之ヲ「ダイナマイト」ト認メタル旨證言シ居リ且數人ノ專閤家モ判然之ヲ「ダイナマイト」ト

在シヤトル日本領事館

斷ジタルヲ以テ證據充分ト認ムト裁決ス
 次ニ判事ハ原告側要求ニ基キ Count 2 不法輸送ハ原告ニヨリ drop
 セラレタル旨ヲ宣ス(檢事 Scherner ノ内話ニヨレバ右ハ立證
 困難ノタメ drop セルモノナルモ陪審員中本科刑ノミヲ認メ他ノ
 counts ニ付無罪ト判ゼン者アルベキコトヲ慢レテ之ヲ撤回セリ
 ト云ヘリ)

最後ニ被告 Partridge ノ供述ニ入り犯行ノ始終ヲ述ベタルガ其中注
 意ニ値スル點如左

△「フ」トノ友交關係ハ客年八月頃ニ始マル處「クリスマス」
 前ノ頃「フ」ハ初メテ計畫ヲ打明フ Drake, Raleigh 等ノ史實
 ヲ引用シ又ハ晩市支那領事ニ接近セルモ満足ナル回答ヲ得ル

在シヤトル日本領事館

能ハザリシニヨリ桑港ニ赴ク豫定ナル旨ヲ語り別ニ露國領事ト
 相談云々トモ云ヒ居リタリ

其後桑港ヨリ歸來ノ節 Oriental Consul ト相談又桑港ニ本部ヲ有
 シ全沿岸ニ勢力アル一團體ト連絡ニ決定セリ云々ト云ヒシコト
 アリ

△計畫熟シタル後被告ハ之ヲ躊躇スルニ至レルガ一夜實兄訪問
 ノ際歸途三度迄大型自動車ニ危ク轢カレント又シ三度目ノ如キ
 ハ脚ニ輕傷ヲ負ハシメラレタリ

△「フ」ノ爆薬入手ニ付犯人ハ豫テ知合ノ Norman Gillius ヲ
 紹介シ「フ」ハ之ニ計畫ヲ打明ケ入手ノ上ハ謝金二百弗ヲ支拂
 フベキ旨約セルモ「フ」ハ之ヲ果サザリキ

在シヤトル日本領事館

△新年ニ入り被告ハ既ニ就職シ得居リタルガ故ニ一層尻込スルニ至レリ

△正月十三日乗船ノ夜モ途中ヨリ引返サントセルモ三人ノ怪漢ニ擁セラレ且「フラツシユライト」ヲ以テ頭ヲ毆打セラレ不得已乗船セルガ Identification ヲ有セザリシタメ税關吏ニ訊問セラレタルガ「フ」保證者タランコトヲ申出デ事ナキヲ得タリ

△船中ニ於テ「フ」ハ蓄電池、Radio control device 及 buzzer ヲ示シタルガ「フ」ノ就寢後 Radio device ヲ取りテ海中ニ遺棄セリ

第四日

三月十七日

在シヤトル日本領事館

前日ニ引續キ被告ノ陳述續行、注意スベキ點如左

△「タコマ」滞在中「フ」ノ自動車ニ乗ルコトヲ拒ミタルニ拳銃ヲ以テ脅カサレタルコト、「ボート」ヲ濫用シテ「ダイナマイト」ヲ積ムヲ拒ミタルトモ同様脅カサレタルコト、被告ハ同夜右「ボート」ヲ河中ニ放チ犯行ヲ妨ゲタルコト

△沙市ニ於テ計畫決行ノ當夜電車ニ乗ル際更ニ同様脅迫ヲ受ケタルコト、被告ハ用意シアリタル防寒用油ヲ故意ニ「タコマ」ニ遺シ「フ」ヲシテ之ヲ用フルコト能ハザラシメタルコト

△大北鐵道夜警ニ捕ハレタル時「フ」ノ名ハ偽名ヲ告ゲタリ、次デ刑事ノ訊問ニ對シテハ直ニ真相ヲ告gezシテ「暴飲會」ニ赴キタリト偽リタルガ次デ「フ」ノ溺死セル事實ヲ聞カサレ殺

在シヤトル日本領事館

十一
人殺罪ノ嫌疑アリト告ゲラル、ニ及ビ初メテ事實ヲ自白セルガ
其際多少拷問セラレタリ

被告「フォーサイム」共何等共產黨ニ關係ナシ

被告側證人 Norman Gilles ハ被告ハ晚香港ニ於テ評判ヨク今回ノ
事件ニ付テモ友人等々コトノ意外ナルニ喫驚シ居レリ云々ト證
言セリ

刑事 Lt. Hines 起テ原告側ノタメニ論駁シ被告ハ訊問ニ際シ會テ
拳銃ヲ以テ脅迫セラレタルガ爲ニ犯行ニ參加セル旨ヲ語レルコ
トナシト證言ス

第五日 三月十八日 (辯論最終日)

在シヤトル日本領事館

十二

検事 Schermer 陪審員ニ對シ約三十分ニ亘リ原告側所見ヲ説明シ

被告ハ犯行脱退ノ機會充分ナルニ拘ラズ之ヲ決行セズ「フ」ノ
脅迫ニヨリ犯行ニ參加セリトハ認め難シ又自ラ「スビート、ボ
ート」ノ借入、「タコマ」ニ於ケル「キャビン」ノ借用、時間
仕掛ノ裝置ニ當レル等ノ事實ニ見テ犯意充分ニシテ共犯ノ罪ヲ
構成スト論告ス

被告辯護士 Wilcox 之ニ對シ終始陪審員ノ同情ヲ煽ル態度ヲ以テ
被告ガ無罪ノ Country boy ニシテ教師ノ經驗ヲ有スル主犯「フ
」ニ教唆セラレ後ニ至リテハ脅迫セラレタルコトヲ強調シ此純
情ノ青年ヲ所刑シテ永久ノ罪入タラシムル勿レ最善ノ途ハ「カ
ナダ」ニ送り返シテ正業ニ就カシムルニ在リ本事件ハ法廷ニ持

在シヤトル日本領事館

出サルベキニ非ズシテ單ニ移民官ノ審判ニ委セラルベキモノナ
 リトテ果テハ「バネー」事件ヲモ持出シ日本軍ノ非人道的行爲
 ニ無智ノ田舎青年ヲモ憤激セシムルニ足ルモノアリシナルベシ
 被告辯護士 *Urestad* ハ更ニ、若シ「フォーサイス」溺死セズシ
 テ法廷ニ罪ヲ論ゼラレタリトセバ被告「バツトリツジ」ノ如キ
 ハ問題トナラザリシナルベク「フ」ガ死亡セルタメ「バ」ヲ罪
 セントスルガ如キハ誤レリ、「フ」ノ背後ニ何物カアリタルコ
 トハ略々明ナルモ之ヲ突止ムル由ナク「バ」ハ單ニ「フ」ノ「
 〇」タリシコト明瞭ナリ、被告ハ貧家ニ生レタル一青年ニシテ「
 犯人型」ノ人物ニ非ズ又「フ」ヨリ拳銃ヲ以テ強要セテレタル
 モ實行ニ當リテハ種々ノ手段ヲ以テ其達成ヲ妨ゲタル事實アリ

在シヤトル日本領事館

假リニ日本ニ於テ日本人ニヨル同様事件アリタル場合同國ノ依
 審員ハ之ヲ如何ニ取扱フベキヤヲ想像セヨト論ジ
 檢事ハ被告側ガ「バネー」事件又ハ日本ニ於ケル陪審ヲ云々セル
 ハ陪審員ヲ *prejudice* セシムル爲ノ努力ニシテ不當ナル旨論駁シ
 被告ハ審問約一週間ノ間曾テ脅迫ヲ受ケシ旨口ニセルコトナク
 且犯人ハ被告側ノ云フガ如ク無智ナラズ且是非ノ辯別ニ充分ナ
 ル年齢ナリ要之其犯意充分ト認ムベク原告ハ華州人民ノ名ニ於
 テ被告ガ正當ニ罪セラレンコトヲ要求スト結論シ
 茲ニ口頭辯論終結シ午后零時五分事件ハ陪審ニ廻附セラレタリ

在シヤトル日本領事館

to your judgment as in any wise affecting the credibility of such witness, and to give to the testimony of the several witnesses just such degree of weight as in your judgment it is entitled.

You will be slow to believe that any witness has testified falsely in this case, but if you do believe that any witness willfully has testified falsely as to any material fact, then you are at liberty to disregard the testimony of such witness entirely, except in so far as the same ~~may~~ may be corroborated by other credible evidence in the case.

In conclusion let me remind you that each of you has taken a solemn oath that you will well and truly try this case and a true verdict render upon the evidence given in the trial and upon the law as now given you by the court. You have nothing whatever to do with the punishment to be inflicted in case of a violation of law. The fact that punishment may follow a conviction cannot be considered by you except insofar, and only so far, as it may tend to make you careful. Neither must you allow yourselves in the least to be moved by sympathy or influenced by prejudice. The question of guilt or innocence is a question of fact, not a question of prejudice or what shall the punishment be. If, as a matter of fact, from the evidence, defendant is guilty, no amount of sympathy will make a defendant innocent. If a defendant is innocent, no amount of prejudice will make him guilty; for regardless of what the penalty may be, regardless of any feelings or prejudice, a defendant is upon the evidence and the evidence alone either guilty or not guilty. What is the true verdict as shown by the evidence is the one question before you.

This being a criminal case, it will require your entire number of twelve to return a verdict.

(11)

The defendant is charged with two separate offenses.
You may find the defendant guilty ^{on} one or both counts, or acquit him on one or both.

In retiring to deliberate upon your verdict, you will select one of your number to act as foreman, whose duty it will be to sign whatever verdict you agree upon.

You will take to the jury room the exhibits which have been admitted in evidence, these instructions and one form of verdict. You will fill in the blanks which you find in such verdict.

If you find the defendant guilty of the crime charged in any count in the information, you will then fill in the blank in the paragraph of said count of the verdict the word "guilty". If you find the defendant not guilty of the crime as charged in any count, then you will fill in the blank for such count the words "Not Guilty".

You will now listen to the argument of counsel.

HUGH C. TODD

Judge.

then such party is not a conspirator and can not be found guilty of conspiracy to commit the crime.

A conspiracy is a combination of two or more persons to accomplish some criminal or unlawful purpose by concert of action. It is complete when the agreement is entered into and it is immaterial whether or not the purpose is accomplished.

You are instructed that where two or more persons combine or conspire to commit any unlawful act, each is criminally responsible for anything said or done by his associates or confederates in furtherance of the common design for which they combine. In the contemplation of the law, the act of one is the act of all.

To convict the defendant of the offense herein charged in COUNT III, the State must prove to you beyond a reasonable doubt:

(1) That on or about the 19th day of January, 1938, this defendant GEORGE HENRY PARTRIDGE alias FRANK ROMERO did conspire, confederate or agree with one Rolphe Maurice Forsythe to commit a crime, to-wit: to destroy or injure the Motorship Hiye Maru by bombing the same;

(2) That the defendant did so conspire with said Rolphe Maurice Forsythe in King County, Washington.

You are instructed that whenever any crime is committed by two or more persons, one of whom participates only under compulsion by another engaged therein, who by threats creates a reasonable apprehension in the mind of such participator that in case of refusal he is liable to instant death or grievous bodily harm, such threats and apprehension constitute duress and said participator is

not liable. However, such fear on the part of the defendant must be well founded, and immediate and actual danger of death or grievous bodily harm must be present, and the compulsion must be of such character as to leave no opportunity for escape. Threats made sometime prior to the commission of the crime in question or threats of future injury are not sufficient to constitute duress.

You are further instructed that if you find that the defendant participated in a crime or crimes, and that prior to the commission of such crime or crimes, if any, he had a reasonable opportunity for escape, then the fact that the defendant was threatened, if you find he was threatened, would be no defense to the commission of a crime or crimes.

If you are convinced by the evidence in this case beyond a reasonable doubt that the defendant was present at the time and place of the crime alleged and participated in the acts which constituted the crime, then the burden is upon the defendant to establish his defense of duress by a preponderance of the evidence.

You are the sole and exclusive judges of the evidence and of the credibility of the several witnesses and of the weight to be attached to the testimony of each. In weighing the testimony of a witness, you have a right to consider his demeanor upon the witness stand, his apparent fairness or lack of fairness, the apparent candor of such witness, the reasonableness or unreasonableness of the story such witness relates, and the interest, if any, you may believe a witness feels in the result of the trial, and other fact or circumstance arising from the evidence which appears

cussion, by percussion, or by detonator of any part of the compound or mixture may cause such a sudden generation of highly heated gases that the resultant gaseous pressures are capable of producing destructive effects on contagious objects or of destroying life or limb.

You are instructed that under the statutes of the State of Washington, every person who stands by aiding, assisting or abetting, or who, not being present, directly or indirectly, has aided, assisted, abetted, advised, encouraged or counseled the perpetration of a crime is guilty of the commission of the crime, and shall be proceeded against and punished as a principal.

The defendant is charged in Count I of the information filed against him in this case with the crime of Possession of an Explosive Device. I instruct you that the term "possession", in its ordinary and generally accepted sense, means the act of possessing; actual care, control and management; having or holding or detention of property in one's power or command; having personal charge of and exercising the right of ownership and control; the present right and power to control a thing.

If you should find that there was an explosive device, and you should further find that Forsythe, the deceased, had "possession" of the same as above described, and you further find that the defendant, Partridge, knowing the same to be an explosive device and that Forsythe was intending to use the same or cause the same to be used for an unlawful purpose, and, with such knowledge, wither held the same in his hands and carried it, if you so find, even though directed so to do by Forsythe, without duress, or stood by aiding, assisting, abetting, advising or counseling, without duress, Forsythe in his "possession" of such explosive device, if you find it was such, then

-7-

the defendant would be guilty of the crime of possession as a principal, even though Forsythe exercised the right of ownership, control or "possession", as hereinabove defined.

To convict the defendant of the offense herein charged in COUNT I, the State must prove to you beyond a reasonable doubt:

(1) That on or about the 19th day of January, 1938, this defendant GEORGE HENRY PARTRIDGE alias FRANK ROMERO did have an explosive device, to-wit: a bomb composed of three hundred and sixty-~~nine~~ nine sticks of dynamite connected with a time device, in his possession or under his control;

(2) That said defendant did have such bomb in his possession with intent to use or cause the same to be used for the unlawful purpose of bombing and destroying the Motorship Hiye Maru;

(3) That such possession was so had by this defendant in King County, Washington.

Under the laws of the State of Washington, whenever two or more persons shall conspire to commit a crime, each of such persons shall be guilty of the crime of conspiracy.

If you find that this defendant entered into a conspiracy in Canada, but backed out and withdrew from that conspiracy, before entering the State of Washington, then you must find him not guilty of the charge of conspiracy.

You are instructed that where a party to a conspiracy to commit a crime withdraws from such conspiracy before the crime is committed, and the crime is after ward committed without him, even though he is present under duress, as defined in these instructions,

-8-

You are instructed that a confession of guilt by the accused is to be considered against him when, and only when, it was freely and voluntarily made without having been induced by the expectation of promised benefits or by fear of any threatened injury.

I further instruct you that a confession is not rendered of no value as evidence ^{by} the mere fact that it was elicited by questions put by police officers, but the fact of such interrogation may be taken into consideration in determining whether or not the confession was made voluntarily.

The court instructs the jury that the law presumes that every man intends the natural and probable consequences of his own acts. It is not necessary to establish intent by direct and positive evidence but intent may be established by inference and in the same way as any other fact, by taking into consideration the acts of the parties and all the facts and circumstances of the case.

Under the Constitution and laws of this state the court is prohibited from commenting upon the facts in this case or upon the credibility of any witness who has testified before you. The court has not intentionally commented upon the facts in this case or upon the credibility of any witness who has testified before you, but if it has seemed to you that during the course of the trial, or in the giving of these instructions, the court has said or done anything that would appear to be commenting upon the facts or upon the credibility of any witness, it is your duty to entirely disregard the same and determine the facts solely from the evidence that has been admitted in the case.

-5-

Every person who shall wreck, burn, sink, scuttle or otherwise injure or destroy a vessel or its cargo, or willfully permit the same to be done, with intent to prejudice or defraud an insurer or any other person, shall be guilty of a crime.

You are instructed that under the laws of the State of Washington it is unlawful for any person to have in his possession or control any shell, bomb or similar device, charged or filled with one or more explosives, intending to use the same or cause the same to be used for an unlawful purpose.

You are further instructed that the possession of any bomb or device, filled with one or more explosives, shall be deemed prima facie evidence of an intent to use the same, or cause the same to be used, for an unlawful purpose.

You are instructed that this defendant is not charged with having dynamite alone in his possession; that is, that the mere possession of dynamite alone by this defendant is not enough to convict him. He is charged with having an explosive device in his possession; that is, with having the dynamite and a timing device connected therewith. If this defendant had only the one or the other in his possession, and did not have both, as charged in the information, then you must acquit the defendant as to this count.

The term "explosive" means and includes any chemical compound or mechanical mixture that is commonly used or intended for the purpose of producing an explosion, that contains any oxidizing and combustible units, or other ingredients, in such proportions, quantities or packing, that an ignition by fire, by friction, by con-

-6-

The jury is further instructed that the doubt which entitles the defendant to an acquittal must be a doubt for which a reason exists. You are not to go beyond the evidence to hunt up doubts, nor must you entertain such doubts as are merely vague, imaginary or conjectural. A reasonable doubt is such a doubt as exists in the mind of a reasonable man after he has fully, fairly and carefully compared and considered all of the evidence or lack of evidence introduced on the trial. If, after a careful consideration and comparison of all the evidence, you can say you have an abiding conviction of the truth of the charge, you are satisfied beyond a reasonable doubt.

You are instructed that evidence of good character is to be considered by you with other evidence in this case in arriving at your verdict.

Evidence may be direct or circumstantial. I instruct you that as to circumstantial evidence alone, it must be such as to not only show beyond a reasonable doubt that the facts are true, but that these facts must be such as are absolutely opposed upon any reasonable grounds with the innocence of the accused, and incapable of explanation on any reasonable hypothesis other than the guilt of the accused. The degree of certainty in circumstantial evidence must be equal to that of direct testimony. In order to justify the inference of guilt from circumstantial evidence, the proof must be absolutely incompatible with the innocence of the accused and incapable of explanation upon any reasonable hypothesis than that of guilt.

Confessions made by a defendant charged with crime, when such confessions are not caused by duress or fear produced by threats,

are to be considered by the jury in connection with all the other evidence in the case in determining the guilt or innocence of the accused, and their weight, as evidence, like that of any other fact, is to be determined by you alone. If you find any such confessions have been made in this case, you have a right, in weighing such testimony, to consider all the facts and circumstances connected therewith, together with defendant's interest, if any, in the transaction, and his knowledge, if any he had, of the circumstances surrounding the same, and all other circumstances which may throw any light upon or aid you in weighing such testimony.

You are instructed that as to the testimony as to admissions of the defendant, before you can consider the defendant's statements against him, where he denies them, you must find them to be true beyond a reasonable doubt.

Admissions made by a defendant charged with crime, when such admissions are not caused by duress or fear produced by threats, are to be considered by the jury in connection with all the other evidence in the case in determining the guilt or innocence of the accused, and their weight as evidence, like that of any other fact, is to be determined by you alone. If you find that any such admissions have been made in this case, you have a right, in weighing such testimony, to consider all the facts and circumstances connected therewith, together with the defendant's interest, if any, in the transaction, and his knowledge, if any he had, of the circumstances surrounding the same, and all other circumstances which may ~~throw~~ throw any light upon or aid you in weighing such testimony.

IN THE SUPERIOR COURT OF THE STATE OF WASHINGTON FOR KING COUNTY

STATE OF WASHINGTON,
Plaintiff,

vs.

GEORGE HENRY PARTRIDGE alias
FRANK ROMERO,
Defendant.

No. 19735

I N S T R U C T I O N S

MEMBERS OF THE JURY:

The defendant is charged by information filed by the State of Washington in COUNT I with the crime of POSSESSION OF EXPLOSIVE DEVICE, alleged to have been committed as follows, to-wit:

He, said GEORGE HENRY PARTRIDGE alias FRANK ROMERO, in the County of King, State of Washington, on or about the 19th day of January, 1938, together with one Rolphe Maurice Forsythe, now deceased, willfully, unlawfully and feloniously, and with intent to use the same and cause the same to be used for an unlawful purpose, did have in his possession and under his control an explosive device, to-wit: a large bomb containing three hundred and sixty-nine sticks of dynamite, connected with a time device, the said unlawful purpose and intent being that of bombing and destroying the Motorship Hiye Maru.

The defendant is further charged by said information in COUNT III with the crime of CONSPIRACY, alleged to have been committed as follows, to-wit:

He, said GEORGE HENRY PARTRIDGE alias FRANK ROMERO, in the County of King, State of Washington, on or about the 19th day of

-1-

January, 1938, unlawfully devising, designing and intending to conspire to commit a crime, to-wit: the wilful destruction of the MS Hiye Maru, a vessel, by bombing said ship, wickedly, fraudulently and unlawfully did conspire, confederate and agree together with one Rolphe Maurice Forsythe, since deceased, to wreck, burn, sink, scuttle or otherwise injure or destroy said MS Hiye Maru, by bombing the same.

To this information the defendant has entered a plea of not guilty which plea puts in issue every material allegation contained in said information.

You are instructed that the law presumes a defendant to be innocent until he is proven guilty beyond a reasonable doubt. This presumption is not a mere matter of form, but it is a substantial part of the law of the land, and it continues throughout the entire trial and until you have found that this presumption has been overcome by the evidence beyond a reasonable doubt.

You are instructed that a reasonable doubt may arise either from the evidence or from a want of evidence, and that the absence of sufficiently satisfying evidence may be a ground for a reasonable doubt of the defendant's guilt.

You are instructed that it is not enough that the evidence establish only a strong suspicion or probability of the guilt of the defendant; that before the defendant can be convicted, the hypothesis of his guilt must flow naturally from the facts proved and must be consistent with all of them.

-2-

F-0145

0:51

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文書 調查 人典 儀典 文書

昭和十三年四月二日

昭和十三年 九二一九 暗

本 省 三月卅一日後發
四月一日前着

米

廣田外務大臣

佐藤領事

第二三號

往電第一九號聯邦當局ノ取扱振ニ關シ照會セル處「ビューロー、オ
ブ、インベスチゲーション」其ノ他ニテ引續キ証據捜査中ナルカ右
ハ主トシテ「マリン、ロウ」違反罪ヲ構成スルヤ否ヤヲ判定スルニ
アル趣回答越シタリ從テ共犯ニ關スル加罪ハ前（審）ヲ覆ス有力新
事實發見セラレサル限り成立セサルヘク又「マリン、ロウ」違反罪
不成立ノ場合ハ移民法違反ノ廉ニテ單ニ追放處分位ニ終ルニアラズ
ヤトモ懸念サル當方ニテハ屢次報告ノ通り探偵使用其ノ他手ヲ盡シ

外務省

當局トモ聯絡ニ努メ來レルカ背後關係ニ付テハ探査ノ術ナク加奈陀
側ニ於テ犯人近親等ニ付巧妙ニ捜査スル外ナシト思考ス
米、桑港、羅府、「オートランド」、加、晚香坡へ暗送セリ（了）

外務省

電信課長

大臣

次官

昭和13 九二一九 暗

本 省 四月 一日 前着

米

廣田外務大臣

佐藤領事

第二三號

往電第一九號聯邦當局ノ取扱振ニ關シ照會セル處「ビューロー、オ
ブ、インベスチゲーション」其ノ他ニテ引續キ証據捜査中ナルカ右
ハ主トシテ「マリン、ロウ」違反罪ヲ構成スルヤ否ヤヲ判定スルニ
アル趣回答越シタリ從テ共犯ニ關スル加罪ハ前（審）ヲ覆ス有力新
事實發見セラレサル限り成立セサルヘク又「マリン、ロウ」違反罪

移民法違反ノ廉ニテ單ニ追放處分位ニ終ルニアラス
當方ニテハ屢次報告ノ通り探偵使用其ノ他手ヲ盡シ

日/月/年 2

本信寫挿入先

會文儀人調文情條通米歐東

秘書官

寫送先

門	類	項	目	號
1	5	0	3	

外務省

當局トモ聯絡ニ努メ來レルカ背後關係ニ付テハ探査ノ術ナク加奈陀
側ニ於テ犯人近親等ニ付巧妙ニ捜査スル外ナシト思考ス
米、桑港、羅府、「オートランド」、加、晚香坡へ暗送セリ（了）

外務省

亞米利加

第一課

附屬添

昭和十三年四月十九日
第一課

機密第九號

昭和十三年三月三十一日

昭和十三年四月十九日接受

在シアトル

領事 佐藤 由



外務大臣 廣田 弘毅 殿

日枝丸爆破未遂事件ニ關スル件

本件犯人ニ對スル聯邦當局取扱振リニ付テハ不取敢電報ヲ以テ報
告置ノ次第アル處本官ト District Attorney F. A. Pellegrini 間往複書
信寫御參考迄別添ノ通り送付ス

本信寫送付先 在米大使 桑港 羅府 ボートランド

晚香坡

在シアトル日本領事館

8:54

F-0145

C O P Y

Department of Justice
UNITED STATES ATTORNEY
Western District of Wash.

Seattle, Washington
March 29, 1938

Mr. Yuki Sato
Consul of Japan
Imperial Japanese Consulate
Central Building
Seattle, Washington

Dear Sir:

In answer to your communication of March 28 with reference to the contemplated action against George Partridge for the attempted bombing of the Japanese steamship Hiye Maru, you are advised that this office is taking the matter under consideration pending further investigations being made by the Federal Bureau of Investigation and other governmental agencies charged with the enforcement of the maritime laws of the United States.

Partridge, pending the outcome of said further investigations, is being held by the Immigration authorities upon a warrant of deportation to Canada.

Respectfully,

F. A. PELLEGRINI (signed)
Asst. United States Attorney

C O P Y

March 28, 1938

Mr. Frank A. Pellegrini
Assistant U. S. District Attorney
Post Office Building
Seattle, Washington

Dear Sir:

As you may know, I am greatly interested in the outcome of the Hiye Maru bombing plot trial and the trial of George Partridge because of the Japanese angle involved. Accordingly, I am anxious that I have first-hand information regarding past and future procedures.

I should greatly appreciate having you address a letter to me containing the information you gave my secretary in previous telephone conversations, such as the present whereabouts of Partridge, the various government agencies investigating the case, the possible future procedures of your office.

I trust that this request is not in conflict with the policy of your office, and that it may not cause you inconvenience.

Very truly yours,

Yuki Sato
Consul of Japan

F-0145

0:55

懸案		<table border="1"> <tr> <th>信用</th> <th>執務用</th> </tr> <tr> <td>主信</td> <td>2 1 3</td> </tr> <tr> <td>附</td> <td>2 1 3</td> </tr> <tr> <td>甲</td> <td></td> </tr> <tr> <td>乙</td> <td></td> </tr> <tr> <td>丙</td> <td></td> </tr> <tr> <td>丁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td></td> </tr> </table>		信用	執務用	主信	2 1 3	附	2 1 3	甲		乙		丙		丁		備考	
信用	執務用																		
主信	2 1 3																		
附	2 1 3																		
甲																			
乙																			
丙																			
丁																			
備考																			
文書課長 盧野 文書課發送 昭和拾參年四月 貳日發送済 淨書 (印) 主 亞米利加局長 任第一課長 昭和十三年三月八日起草 機密合第一四五〇號 昭和拾參年參月廿五日 日附 附局		受信人 日本郵船會社社長 渡辺 次郎 送信人 日本郵船會社副社長 渡辺 次郎 名件 日枝丸爆破陰謀事件ニ関スル件 今般在加奈陀木下代官公使より本件ニ関スル二月十一日 附加在加奈陀外務大臣公翰送付越セル付 即答考込加 茲ニ送付ス (別紙在加奈陀外務大臣公翰送付越セル付 即答考込加) 公 信 案																	
庶各外五九號 外務省亞米利加局 第一課長 石井 康 殿 昭和十三年四月五日 日本郵船株式會社 庶務課 拜啓 益々御清榮之段奉賀候 陳者當社渡邊副社長宛三月廿一日附貫翰米一機密合第一四五〇號ヲ以 テ日枝丸爆破陰謀事件ニ關スル加奈陀外務大臣公翰寫御送附ヲ賜リ誠 ニ難有拜受仕候 右御請旁々御厚禮申述度如斯御座候 敬 具		別紙 (12.7 4) 31 30																	

發信用		執務用	
主信	2	1	23
附	2	1	3
甲			
乙			
丙			
丁			
備考			

懸案

文書課長	文書課發送 昭和拾參年五月 參日發送済 淨書 室井	正校 (原稿)	昭和三十二年 四月 五日 起草
主 管	亞米利加局長	主 第一課長	
米一機密	第一八七九號	昭和拾參年四月廿五日	日附 附屬
名 件	日校丸爆破陰謀事件ニ関スル件	名人信發	堀 次 官
名 人	日本郵船会社 渡辺副社長	名人信發	石井 米一 課長
信 受	近 信 次 官	名人信發	堀 次 官
名 件	本件ニ関スル在リットル佐藤領事 District Attorney, F.A.	名人信發	堀 次 官
公 信 案	ルニ付 何等御参考迄右茲ニ送付ス	名人信發	堀 次 官
外 務 省		名人信發	堀 次 官

別紙

25 193

發信用		執務用	
主信	2	1	3
附	2	1	3
甲			
乙			
丙			
丁			
備考			

懸案

文書課長	文書課發送 昭和拾參年五月 參日發送済 淨書 室井	正校 (原稿)	昭和三十二年 四月 五日 起草
主 管	亞米利加局長	主 第一課長	
米一機密	第一八七九號	昭和拾參年四月廿五日	日附 附屬
名 件	日校丸爆破未遂事件公判ニ関スル件	名人信發	堀 次 官
名 人	日本郵船会社 渡辺副社長	名人信發	石井 米一 課長
信 受	近 信 次 官	名人信發	堀 次 官
名 件	本件ニ關シ今般在リットル佐藤領事ヨリ別紙寫ノ通り報告アリタ	名人信發	堀 次 官
公 信 案	ルニ付 何等御参考迄右茲ニ送付ス	名人信發	堀 次 官
外 務 省		名人信發	堀 次 官

別紙

25 192

F-0145

0:57

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 儀典 文書 會計 祕書官

大臣 次

電信課長

昭和13 一二〇九一 暗 シヤトル 四月三十日後發 米
本省 五月一日前着
廣田外務大臣 佐藤領事
第三五號
往電第二三號ニ關シ
「マリーン、ロウ」ハ證據不充分ノ爲遂ニ適用ヲ見ルニ至ラス他方
當地移民當局ヨリノ申請ニ對シ二十九日華府勞働省ヨリ追放方指令
アリ加奈陀側ノ同意ヲモ取付ケタル結果同夜當地發船便ニテ追放セ
ラレタリ背後關係ノ糾明ハ結局冒頭往電末段ノ手段以外方法ナシト
信セラル
米、加、晚香坡へ轉電シ在米各領事へ暗送セリ

外務省

公信案

外務省

(別紙「シヤトル」來信オセ九卿附屬英文ノ一字作成添付ノト)

本邦船舶遭難事件

發信用		執務用	
主信	2	1	3
附甲	2	1	3
乙			
丙			
丁			
備考			

懸案

公	信	案
本件ニ關シ今般在シテトル佐藤領事ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタ ルニ付何等御參考迄右茲ニ送付ス (別紙「シアル」來電第三五號寫作成添附ノコト)		
名	件	日枚丸事件犯人、米国外追放ニ関スル件
名	人	逕 信 次 官 日本郵船会社 渡辺 副社長
名	件	記 録 石井米一課長
管	主	文書課發送 昭和拾參年五月 六日發送済 亞米利加局長 主 第一課長 將 米一機密合第二〇六號 昭 昭和拾參年 五月四日 日附 附屬 正校(原稿) (淨書) 昭和十三年 五月二日起草

4 230

底各外第七〇號

秘 親 展

外務省亞米利加局 第一課長 石井 康 殷

日本郵船株式會社 庶務課

昭和十三年五月二日

拜復愈々御清榮之段奉賀候

陳者當社渡邊副社長宛四月廿五日附貴翰米一機密合第一八七九號ヲ以テ日枝丸爆破陰謀事件ニ關シ在シアトル佐藤領事、District attorney, F. A. Pellegrini 間往復書翰寫御送附賜難有拜受仕候

右御請旁々御厚禮申述度如斯御座候

敬 具

日本郵船株式會社

秘

御
送

電信寫

昭和十一年三月二十九日
ナニヤ
五月一日
在、アトレ、電、領、事、館、電、報

日、牧、九、子、件、犯、人、ミ、ア、ス、ル
ミ、ア、リ、ン、ロ、ウ、ハ、證、據、不、充、分、ノ、爲、逮、捕、適、用、ヲ、見、ル、至、ラ、ス、他、方
コ、ア、ト、レ、
在、地、移、民、當、局、ヨ、リ、ノ、申、請、ニ、對、シ、
二十九日、華、府、勞、働、省、ヨ、リ、退、放、方、指、令
アリ、加、奈、陀、側、ノ、同、意、ヲ、モ、取、付、ケ、タ、ル、結、果、同、夜、當、地、發、遣、便、ニ、テ、退、放、セ
ラ、レ、タ、リ、背、後、關、係、ノ、札、明、ハ、
信、セ、ケ、ル

本、册、既、舊、坡、へ、電、シ、在、米、各、領、事、へ、送、達、セ、リ

庶各外第八〇號

外務省亞米利加局

第一課長 石井 康殿

昭和十三年五月九日

日本郵船株式會社

庶務課

拜復 益々御清祥之段奉賀候

陳者當社渡邊副社長宛四月廿五日附貴翰米一機密合第一八七八號ヲ以テ日枝丸爆破未遂事件公判ニ關スル在シアトル佐藤領事ヨリノ詳細ナル報告寫御送附賜難有拜受仕候
右乍延引御請旁々御厚禮申述度如斯御座候

敬具

庶各外第八一號

外務省亞米利加局

第一課長 石井 康殿

康殿

日本郵船株式會社

庶務課

昭和十三年五月十日

拜復 愈々御清榮之段奉賀候

陳者當社渡邊副社長宛五月四日附貴翰米一機密合第二〇六一號ヲ以テ日枝丸爆破事件犯人ノ米國外追放ニ關スル在シアトル佐藤領事ヨリノ報告寫御送附賜ハリ難有奉鳴謝候
右御請旁々御厚禮申述度如斯御座候

敬具

日本郵船株式會社